

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部 50年のあゆみ

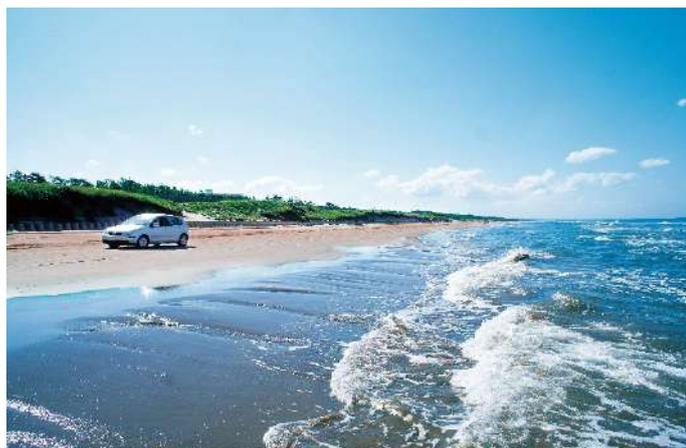


HAKUI FIRE DEPT. **50th**

プロローグ



SHIKA



HAKUI



HOUDATSUSHIMIZU

次の50年に向けて



地域を守る。



目次

—組合消防 50 年のあゆみ—

1	あいさつ	1P
	組合長(志賀町長)	小泉 勝
	副組合長(宝達志水町長)	寶達 典久
	副組合長(羽咋市長)	岸 博一
	議会議長	山本 泰夫
	消防長	松生 正友
2	署訓・位置及び地勢	4P
3	組合組織図・構成市町について	5P
4	組合消防組織について	6P
5	組合消防機関の名称等	8P
6	車両・消防服紹介	15P
7	消防沿革	19P
8	業務紹介	27P
9	関係団体紹介	39P
10	これからの組合消防	46P
11	統計の推移	47P



羽咋郡市広域圏事務組合
組合長(志賀町長)

小泉 勝



羽咋郡市広域圏事務組合
副組合長(宝達志水町長)

寶達 典久

50周年を祝して

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部が発足し、本年で50年という大きな節目の年を迎えました。今日まで羽咋郡市の消防行政の発展のためにご尽力を賜りました関係各位に衷心より感謝を申し上げます。

さて、近年、救急需要の増加に加え、火災や事故、複雑多様化する自然災害、さらには能登地方を震源とする地震も多数発生しており、平成19年の能登半島地震を経験するなか、圏域住民の皆様の消防に対する期待はますます高まっています。中でも、南海トラフ地震の発生が危惧されるほか、台風や局地的な豪雨などによって災害が発生しているため、消防本部と地域の防災を担ってこられた消防団との連携を密にするとともに、東日本大震災などの教訓を活かし、日頃からしっかりと備えておかなければなりません。

住民の皆様の誰もが安全で安心して暮らせるまちを構築すべく、防災力のさらなる充実・強化に全力を傾注してまいります。

結びに、組合消防発足50周年を契機として、防災に携わる方々をはじめ、住民の皆様の防災に対する理解を一層深めていただくことをご祈念申し上げます、ごあいさつといたします。

50周年にあたり

羽咋郡市の組合消防発足から50周年という節目を迎えますことは、ご同慶の至りであり、心からお祝い申し上げます。

本組合は、昭和47年4月に1市4町の消防事務を担うため設立されましたが、その後の環境変化や各種事務の効率化を目的として、環境衛生施設組合、厚生医療組合、千里浜なぎさ公園組合が統合されるなどして発展してきたところです。その役割が増えましても、手を取り合い一丸となって、地域の発展に寄与してまいりました。これも関係各位、地域住民の皆様のご尽力とご協力があったからこそ成しえたものであり、改めて心から敬意を表す次第です。

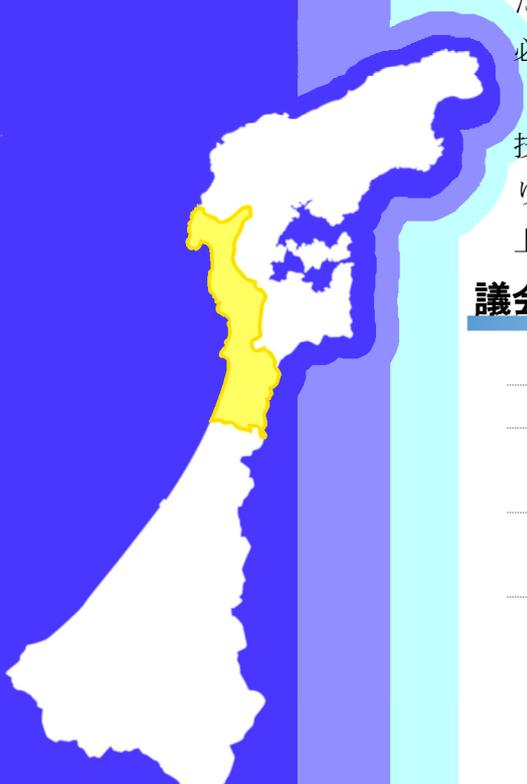
近年は、災害が激甚化し日本各地で大きな被害が生じております。また、人口に対する高齢者割合が増えていることもあり、本組合の役割は、ますます重要となってきております。今後とも、羽咋郡市の安全で安心な地域が維持されますよう、皆様とともになお一層の努力と精進を重ねてまいることをお誓い申し上げます、発行のごあいさつといたします。



羽咋郡市広域圏事務組合
副組合長(羽咋市長)
岸 博一



羽咋郡市広域圏事務組合
議会議長
山本 泰夫



50周年を迎えて

羽咋郡市の組合消防が昭和47年4月に発足して以来50周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。

発足当初から現在に至るまで、圏域住民の生命財産を守るため、消防組織の拡充、施設の整備や資機材の充足等を図り、日夜消防活動にご尽力されてこられた方々に対し、心から敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

近年、自然災害の激甚化が叫ばれる中、風水害においては全国各地で毎年のように被害が発生しており、危機管理体制の更なる充実が求められております。このような現状を十分認識し、災害に強いまちづくりを推進するとともに、圏域住民が安全で安心して暮らせるよう、消防行政と各種団体、住民が連携して総合的な防災体制の充実強化に努めて参ります。

結びに、羽咋郡市広域圏事務組合消防本部のさらなるご発展を祈念いたしまして、発行によせる言葉といたします。

50周年によせて

組合消防発足50周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

皆様方におかれましては、圏域住民の生命、身体および財産を火災や地震等の災害から保護するとともに、被害を最小限にとどめるため、日夜任務に精励されておりますことに心から敬意を表します。

顧みますと、昭和47年4月、組合消防として発足して今年で半世紀。この間、消防署所の整備や消防車両等の更新、資機材の充実など消防力の強化が図られ、近代消防としての体制が著しく向上しました。

近年、社会情勢の変化により、火災や事故等の災害の様態は複雑多様化する傾向にあります。さらに、大規模地震や記録的豪雨等の予測しがたい自然災害が増加しており、日頃の危機意識の保持、防災対策強化の必要性を改めて痛感いたしております。

今後とも、50年にわたる歳月の中で培われ、受け継がれてきた経験と技術力を遺憾なく発揮していただきますとともに、基礎的訓練はもとより、高度な技術の習得に、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

議会議員(議席番号順)

議 長	山本 泰夫				
副 議 長	金田 之治				
羽 咋 市 (6名)	浜名 等 新田 義昭	寺井 哲也 山本 泰夫	櫻井 英一 浅野 俊二		
宝達志水町 (4名)	塚本 勇仁 北 信幸	北本 俊一	金田 之治		
志 賀 町 (5名)	越後 敏明 櫻井 俊一	田中 正文 林 一夫	富澤 軒康		



羽咋郡市広域圏事務組合

消防長

松生 正友

決意表明

組合消防が昭和47年4月に発足して以来50周年という記念すべき節目の年を迎えました。

近年、消防を取りまく環境は、救急需要の大幅な増大や局地的集中豪雨による災害が発生するなど、社会情勢の変化や異常気象に伴い災害事象は大きく変化し、これまで以上に環境は厳しく、今後ますます消防に対するニーズが高まっているものと強く認識しているところです。

このような情勢の中で、消防本部がより緊密な連携と協調を図りながら、住民に信頼され、親しまれる消防を目指すとともに、日々変化し続ける社会情勢に対応すべく積極的に消防行政を展開することに、決意を新たにす所存であります。

結びに、災害から住民を守ることに徹してこられた消防関係各位、先輩諸兄に心から深く敬意を表するとともに、地域住民の皆様からいただいたご支援あつてのことと深く感謝申し上げ、今後とも皆様方から変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

歴代消防長

初代	本吉 二六	第11代	三宅 郷一
第2代	折戸 寛雄	第12代	紺野 繁男
第3代	今江 時男	第13代	岩城 儀猛
第4代	山本 久二夫	第14代	高田 昌信
第5代	揚見 良平	第15代	田頭 善彦
第6代	宮本 健治	第16代	山田 政一
第7代	山田 欣一	第17代	安田 稔
第8代	山本 孝三	第18代	牧野 秀雄
第9代	福浦 俊雄	第19代	松生 正友
第10代	澤田 一平		

和衷協同

小泉 勝

和衷協同

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部は、気持ちを一つに強く優しい組織を目指し、職員一丸となって職務に当たることを基本理念としております。

令和3年5月揮毫「和衷協同」

羽咋郡市広域圏事務組合 組合長 小泉 勝

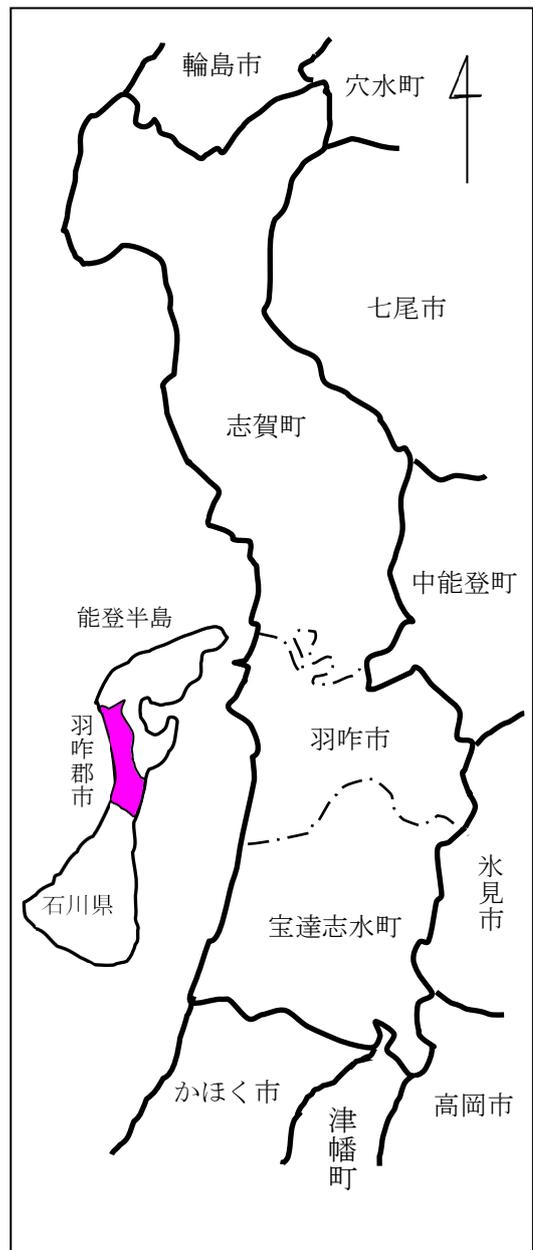
羽咋郡市の位置及び地勢

羽咋郡市は能登半島の入口にあつて、羽咋市、宝達志水町、志賀町の1市2町で構成され、管内面積 440.13km²を擁している。東は眉丈山系を境とし、富山県及び中能登町に接し、南はかほく市、津幡町、北は七尾市、輪島市、穴水町に隣接し、西は日本海に望み東西8km、南北52kmの長方形をなしており、能登と加賀、羽咋と富山県氷見市を結ぶ3線の2級国道と、のと里山海道及びJR七尾線により金沢へ約40分、東京、大阪へは、新幹線等を利用して3時間10分の位置にある。

南東側は海拔300mから600mの山岳丘陵地帯に囲まれ、北西側は日本海に面している。

これらの山岳丘陵より流れる河川流域に沿って農・林業が発達している。

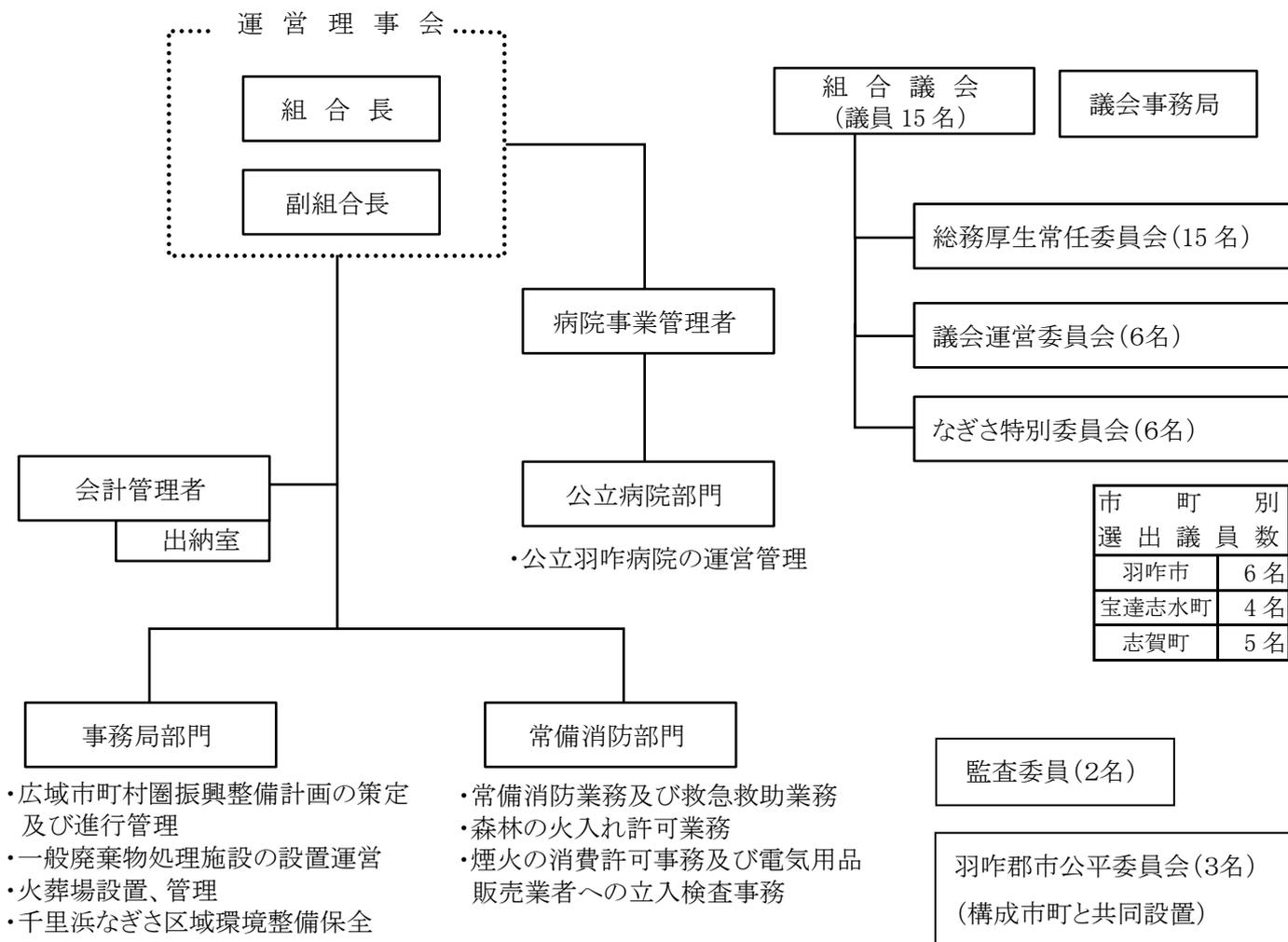
また、宝達志水町沖より富来湾に至る北西側一帯の日本海は県有数の漁業地帯である。



3 組合組織図・構成市町について

羽咋郡市広域圏事務組合構成図

(令和4年4月1日現在)

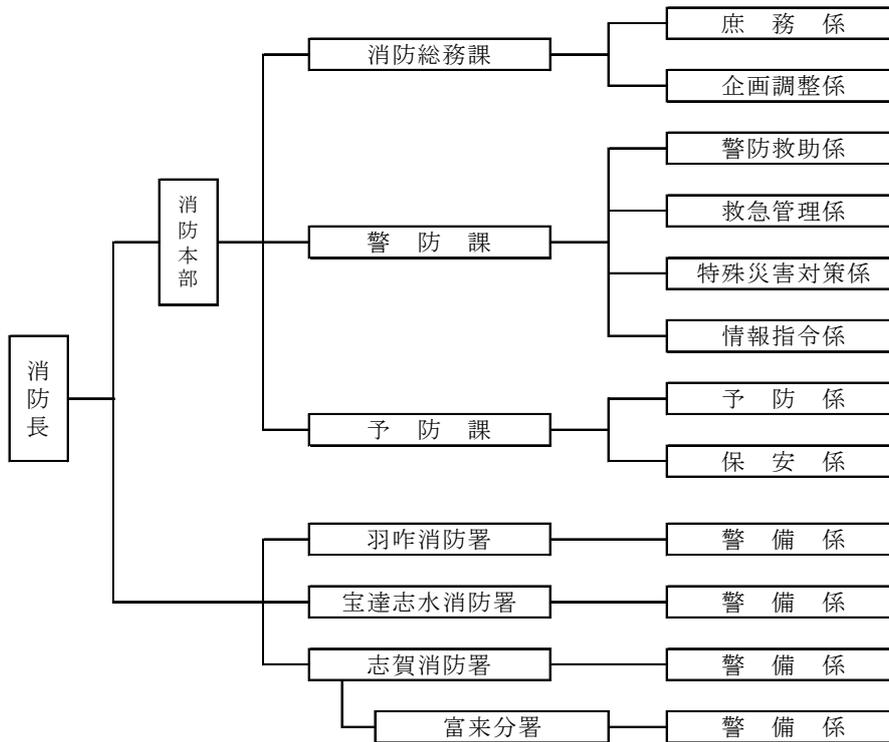


構成市町の面積、人口、世帯数

羽 咋 郡 市 広 域 圏 事 務 組 合	構成市町名	面 積 (k㎡)	令和2年国勢調査		令和4年4月1日現在 (住民基本台帳より)		位 置	
			人 口	世帯数	人 口	世帯数	北 緯	東 経
			羽咋市	81.85	20,407	8,046	20,386	8,509
宝達志水町	111.52	12,121	4,428	12,393	4,899	36° 51′	136° 47′	
志賀町	246.76	18,630	7,447	19,000	7,958	37° 01′	136° 45′	
計	440.13	51,158	19,921	51,779	21,366	—	—	

4 組合消防組織について

組合消防組織図(令和4年4月1日現在)



組織改革に伴う改編として令和3年4月1日より、組織運営を効果的に行うため消防本部に「消防総務課」を新設、「消防総務課」に組織を活性化させるため「企画調整係」を新設しました。

また、警防業務の効率化のため「警防課」の係を見直し「警防救助係」、「救急管理係」、「情報指令係」そして、危機管理能力の強化を目的に「特殊災害対策係」を新設しました。

さらに、「予防課」の「広報係」を廃止し、各分野の広報は、各課の分掌事務に追加し、火災予防広報については、適時、地域の実情に合わせた火災予防広報を行うため所属の業務に加えしました。

所属においては、当務長、係長を中心として組織的かつ幅広く業務を行うことで、より多くの住民のニーズに応えることを目的に「庶務係」、「警防係」、「予防係」、「救急係」、「救助係」、「施設指導係」を廃止し「警備係」を新設しました。

また、原子力災害、武力攻撃等の特殊災害に対応すべく「特殊災害対策担当」を新設しました。

所属の勤務体制では、交代制勤務を2部制から3部制へと変更しました。



【消防本部・羽咋消防署の上空写真】

組合消防発足の経緯

昭和44年4月10日付で、自治省が「広域市町村圏振興整備措置要綱」を公表し、これを受けて、既に一部事務組合形式で環境・厚生・なぎさ事業を共同処理し、他にも羽咋郡市として何らかの関連を以て広く行政を進めてきた圏内1市5町は、石川県知事あてに「羽咋郡市広域市町村圏の設定について」という要望書を提出した。同年8月1日、知事より関係各首長あてに「昭和45年度広域市町村圏の設定について」の通知が出され、これを受けた1市5町では「羽咋郡市広域市町村圏協議会規約」を立案・制定。羽咋市・押水町・志雄町・志賀町・高浜町及び富来町の1市5町を圏域とした振興整備計画を共同で策定、基本計画の実施調整を併せて行うこととし、「羽咋郡市広域市町村圏協議会」が発足した。

昭和45年10月1日付で発足した羽咋郡市広域市町村圏協議会は、1年を経てその振興基本計画の樹立を結了し、一応任務を終えた。その実施にあたり「郡市内総合計画を立案調整し、消防事務及び公平委員会の事務を共同に処理しては」との意見が提出され、論議を重ねた結果、昭和46年10月1日、同協議会を解散し、同日付で羽咋郡市広域圏事務組合を設立、前記の事務の実質的共同処理にあたることとなった。

その後、経済・文化の発展に伴い、生活の多様化・流動化が増大し、小地域における防災機能の充実は極めて困難な実情となっていることから、1市4町(昭和45年11月1日、志賀町と高浜町が新設合併)共同の常備体制を確立し、広域的行政需要に対処することを目的として、消防事務を共同処理することとし、昭和47年4月1日、1本部1署3分署、職員47名で羽咋郡市広域圏事務組合消防本部を発足させた。



【組合消防発足（昭和47年4月）】



【合同庁舎竣工式（昭和49年8月）】

5 組合消防機関の名称等

組合消防機関の名称、位置、庁舎の現状

名 称	所在地	敷地面積 (㎡)	構 造	延べ面積 (㎡)	竣 工 年 月 日 等
消防本部 羽咋消防署	羽咋市中央町 ア 185 番地	2,232.12	鉄筋コンクリート造 3階建	1,322.11	昭和49年8月1日 竣工 平成20年3月21日 増改築・耐震補強
			鉄骨造2階建	98.51	平成20年3月21日 車庫
宝達志水 消防署	宝達志水町敷浪 1区52番地	2,001.68	鉄筋コンクリート造 2階建	500.54	昭和47年8月1日 竣工 平成19年2月28日 増改築・耐震補強 (車庫・事務室・仮眠室・倉庫等)
志賀消防署	志賀町西山台 1丁目1番地	7,771.36	鉄筋コンクリート造 1階建	713.91	平成22年4月1日 竣工
志賀消防署 富来分署	志賀町里本江 乙の189番地	1,914.54	鉄筋コンクリート造 1階建	473.92	平成9年6月9日 竣工
草木基地局	志賀町草木 3の85番地	2,567.13	鉄筋コンクリート造 陸屋根2階建	176.28	平成25年3月31日 取得 アングルラス鉄塔、プラットフォーム2段、高さ29m



【消防本部・羽咋消防署】



【宝達志水消防署】

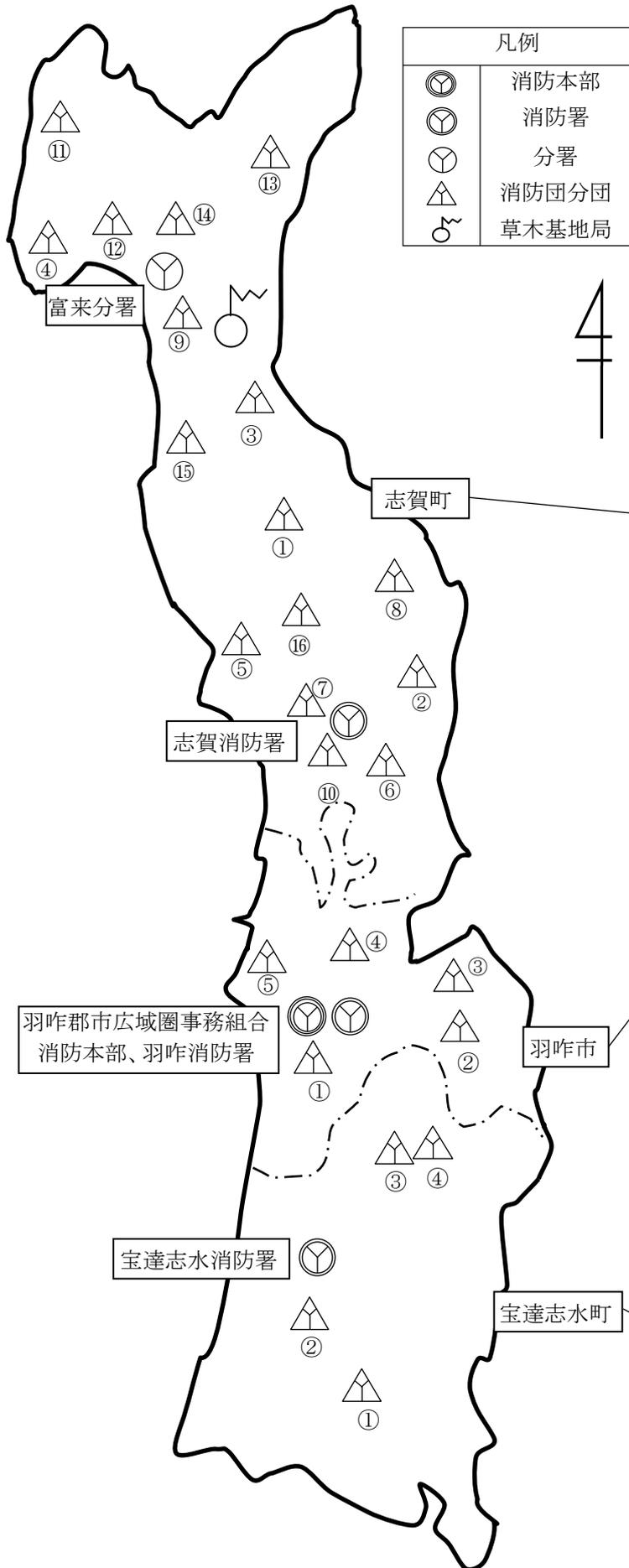


【志賀消防署】



【志賀消防署富来分署】

消防機関の配置図



凡例	
	消防本部
	消防署
	分署
	消防団分団
	草木基地局

消防団名	番号	分団名	実団員(人)
志賀町 定数 324 人		団本部	9 (5)
	①	上熊野分団	19
	②	加茂分団	18
	③	熊野分団	18
	④	西海分団	19
	⑤	志加浦分団	18
	⑥	下甘田分団	18
	⑦	高浜分団	13
	⑧	土田分団	19
	⑨	富来分団	18
	⑩	中甘田分団	18
	⑪	西浦分団	14
	⑫	西増穂分団	20
	⑬	稗造分団	19
	⑭	東増穂分団	17
	⑮	福浦分団	12
⑯	堀松分団	20	
計		16	289 (5)
志賀町機能別消防団			15 (0)

消防団名	番号	分団名	実団員(人)
羽咋市 定数 170 人		団本部	12 (9)
	①	第1分団	40
	②	第2分団	40
	③	第3分団	17
	④	第5分団	28
	⑤	第6分団	23
計		5	160 (9)
羽咋市機能別消防団			0 (0)

消防団名	番号	分団名	実団員(人)
宝達志水町 定数 149 人		団本部	12 (9)
	①	第1分団	34
	②	第2分団	25
	③	第3分団	29
	④	第4分団	30
計		4	130 (9)
宝達志水町機能別消防団			13 (0)

※()は女性の実団員数

※志賀町機能別消防団は各分団に属しており、実団員に含まれる。

消防職員の状況

(令和4年4月1日現在)

階級	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防長	消防副士長	消防士	計
人員	1	7(1)	14	28	17	19	30	116(1)

※()内は再任用職員

消防職員の勤続年数

(令和4年4月1日現在)

階級 年数	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防長	消防副士長	消防士	計
5年未満						1	24	25
5年以上					3	14	6	23
10年 "				3	12	4		19
15年 "				15	2			17
20年 "			1	7				8
25年 "			3	3				6
30年 "		3	7					10
35年 "	1	4(1)	3					8(1)
計	1	7(1)	14	28	17	19	30	116(1)

※()内は再任用職員

消防職員の年齢別構成

(令和4年4月1日現在)

階級 年数	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防長	消防副士長	消防士	計
20歳未満							7	7
20歳以上							17	17
25歳 "						15	5	20
30歳 "				1	10	3	1	15
35歳 "				13	7	1		21
40歳 "				13				13
45歳 "			3	1				4
50歳 "		3	7					10
55歳 "	1	4(1)	4					9(1)
平均年齢	58	56	52	40	34	29	23	35

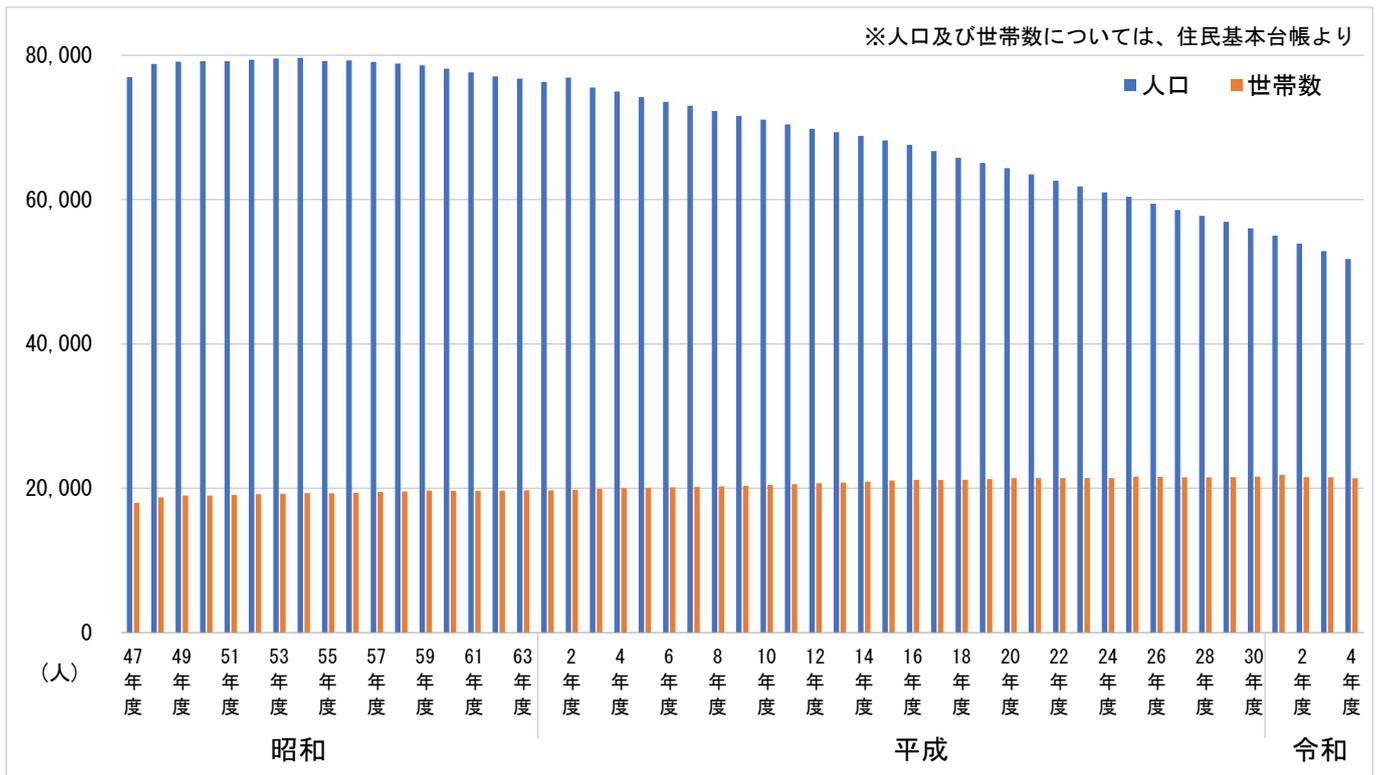
※()内は再任用職員

人口、世帯数、消防職員数(救急救命士数、水難救助隊員数)、消防団員数

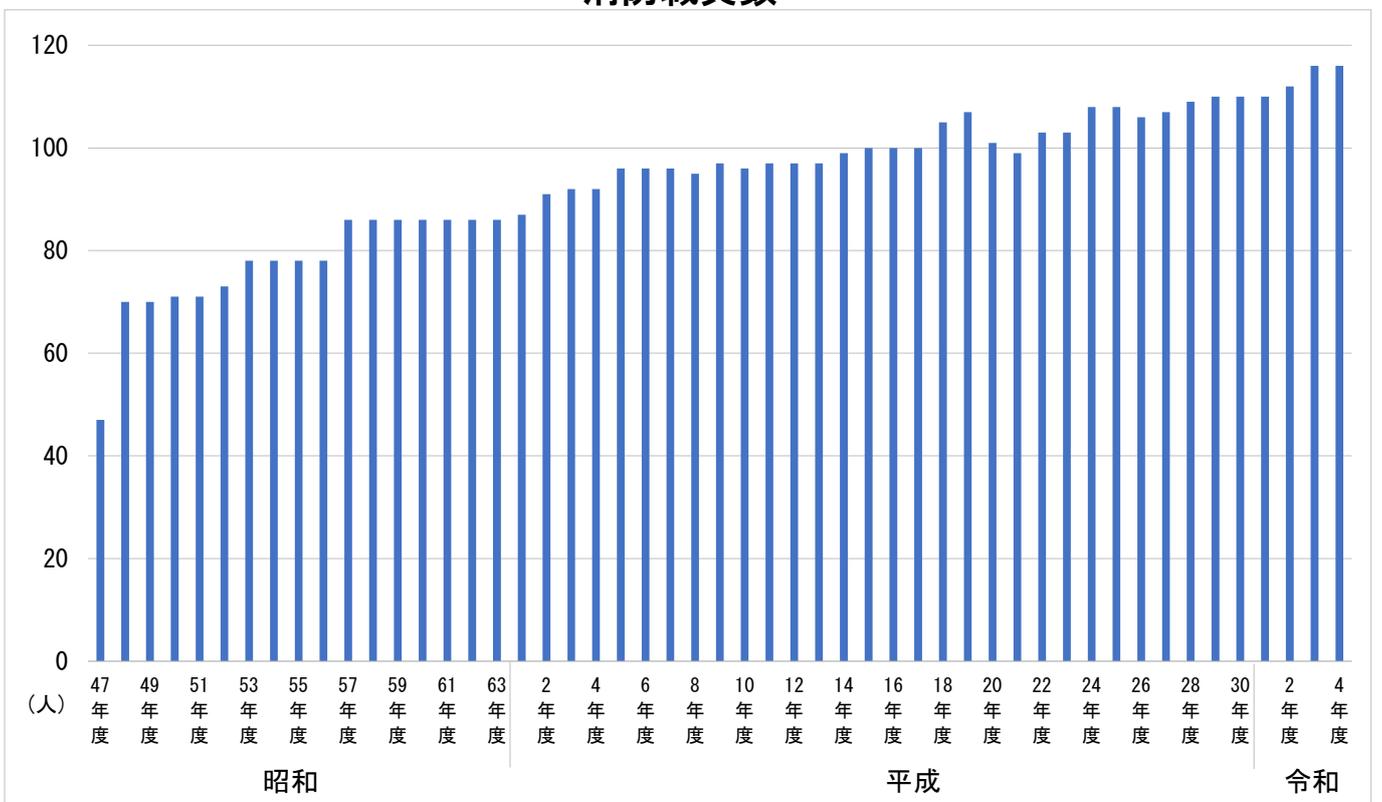
年	項目	人口 (人)※	世帯数 (世帯)※	消防職員数(人)			消防団員数 (人)
				全体	救急救命士数	水難救助隊員数	
昭和	47 年度	76,955	17,964	47			757
	48 年度	78,805	18,717	70			731
	49 年度	79,103	18,978	70			727
	50 年度	79,169	18,996	71			728
	51 年度	79,181	19,070	71			695
	52 年度	79,374	19,170	73			652
	53 年度	79,544	19,227	78			629
	54 年度	79,632	19,308	78			631
	55 年度	79,208	19,288	78			635
	56 年度	79,280	19,345	78			631
	57 年度	79,074	19,470	86			638
	58 年度	78,835	19,547	86			633
	59 年度	78,608	19,674	86			630
	60 年度	78,146	19,619	86			628
	61 年度	77,622	19,636	86			625
	62 年度	77,068	19,646	86			630
	63 年度	76,770	19,695	86			630
平成	元 年度	76,312	19,695	87			620
	2 年度	76,906	19,774	91			628
	3 年度	75,537	19,911	92			623
	4 年度	74,964	20,004	92			630
	5 年度	74,196	20,058	96			626
	6 年度	73,530	20,115	96	1		637
	7 年度	72,996	20,187	96	2		624
	8 年度	72,274	20,238	95	2		627
	9 年度	71,597	20,330	97	3		627
	10 年度	71,083	20,447	96	5		622
	11 年度	70,427	20,548	97	5		611
	12 年度	69,790	20,680	97	6		611
	13 年度	69,346	20,771	97	7		614
	14 年度	68,837	20,915	99	8		618
	15 年度	68,201	21,069	100	9		603
	16 年度	67,581	21,156	100	10		608
	17 年度	66,721	21,126	100	10	10	605
	18 年度	65,807	21,162	105	11	9	601
	19 年度	65,063	21,259	107	12	11	605
	20 年度	64,360	21,370	101	13	10	603
	21 年度	63,489	21,405	99	13	13	600
	22 年度	62,619	21,405	103	14	15	603
	23 年度	61,807	21,398	103	16	17	608
	24 年度	60,996	21,394	108	17	14	615
	25 年度	60,405	21,604	108	19	16	613
	26 年度	59,425	21,576	106	22	15	603
	27 年度	58,577	21,513	107	25	16	601
	28 年度	57,759	21,506	109	29	15	599
	29 年度	56,940	21,547	110	30	18	605
	30 年度	56,033	21,616	110	31	18	603
	31年(令和元年度)	55,008	21,874	110	33	17	600
令和	2 年度	53,925	21,526	112	39	17	592
	3 年度	52,862	21,501	116	41	19	592
	4 年度	51,779	21,366	116	41	17	592

※人口及び世帯数については、住民基本台帳より

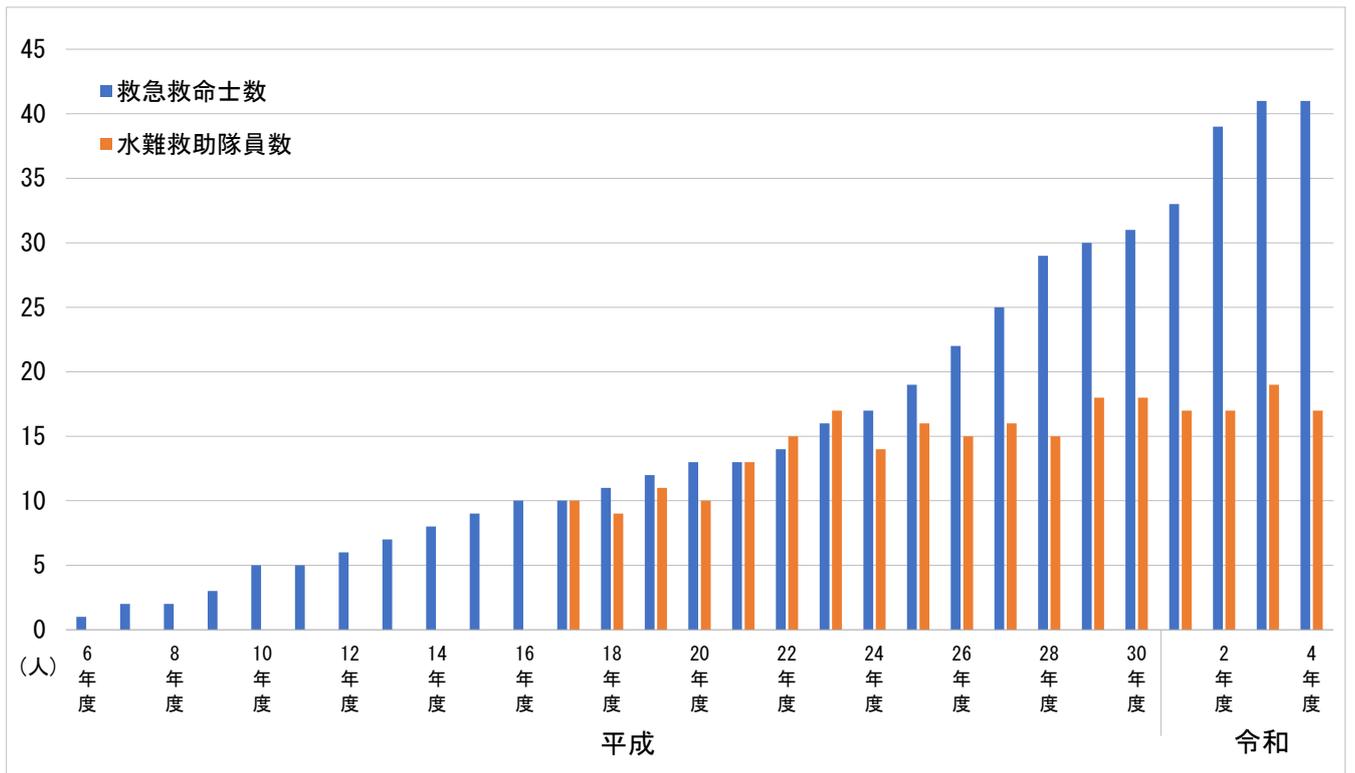
人口と世帯数



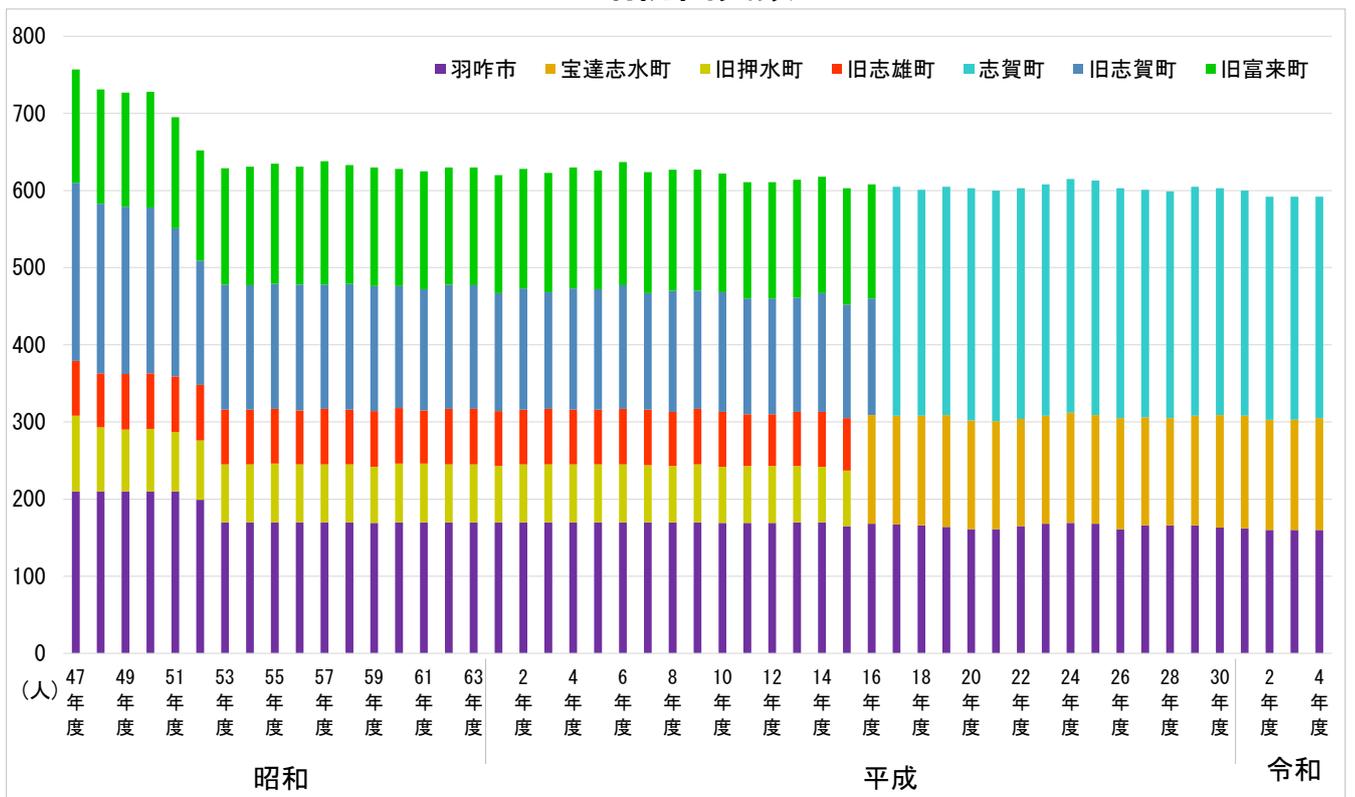
消防職員数



救急救命士数と水難救助隊員数



消防団員数



羽咋郡市広域圏事務組合消防本部職員一覧

<消防本部>

令和4年4月1日現在

消 防 長 松 生 正 友											
松 本 裕	北 英 浩	西 澤 司	吉 田 雅 信								
西 敏 紀	谷 口 智 一	西 野 貴 正	松 栄 聡 史								
橋 本 徹 則	安 達 真 也	北 山 雅 大	細 川 智 司								
辻 井 英 晴	谷 野 泰 弘	池 田 篤 史	東 雄 大								
田 渕 純	大 矢 浩 貴	中 橋 昂 介	今 藤 真 矢								
松 柳 翔 吾	前 谷 内 捷 太	吉 田 佳 祐	春 木 優 心								

<羽咋消防署>

署 長 北 野 良 之											
村 上 俊 一	本 吉 信 久	山 下 和 人	濱 名 毅 幸								
松 本 兼 輔	澤 一 広	西 塔 正 隆	橋 本 和 磨								
榎 木 陽 輔	余 海 亮 太	南 陽 介	荒 川 光								
堀 田 義 朗	横 浜 大 作	金 田 真 志	柳 川 将 悟								
木 村 優 仁	清 水 陽 太 朗	表 晋 太 郎	濱 本 昂 成								
斎 藤 雄 飛	澤 田 大 河	村 本 廉	櫻 井 達 弥								
浅 野 誠 弥	高 名 佑 典	山 田 泰 輔	中 村 旭 希								
山 田 大 輔	藤 澤 悠 汰										

<宝達志水消防署>

署 長 東 間 景 明											
中 本 義 久	松 田 行 雄	村 井 正 仁	北 山 慎 也								
國 井 寛	小 澤 亮 介	岡 山 秀 一	泉 卓 磨								
杉 本 賢 志	松 田 正 行	米 村 康 成	村 上 潤 一								
北 村 啓 輝	田 邊 敬 誠	藤 塚 秀 樹	豊 島 悠 介								
高 山 陽 介	馬 場 貴 大	北 村 虎 太 郎									

<志賀消防署>

署 長 高 蔵 一 弘											
上 野 信 一	半 山 武 志	松 本 圭 介	村 田 繁 樹								
北 山 悟	太 川 紀 元	中 谷 衛	耶 雲 亮 志								
高 嶋 真 司	市 塚 貴 之	田 中 壮 大	大 家 航 輝								
階 戸 琢 巳	上 野 桂 佑	吉 田 大 成	田 中 育								
辺 井 大 河	濱 下 隼 輔	大 西 徹	盛 本 凧								
國 部 嗣 人											

<志賀消防署富来分署>

分 署 長 蟹 屋 敷 悟											
岡 本 利 裕	加 藤 保	小 川 謙 二	野 澤 博 史								
藤 井 義 徳	出 村 昌 寛	飯 田 雅 大	坂 元 光								
福 本 洋 輔	山 科 拓 也	南 昂 輝	村 山 涼 太								
高 田 真 士	北 出 淳	土 田 恭 平	西ヶ谷内 大 成								
座 守 秀 成											

6 車両・消防服紹介

車両紹介



【指揮車】

《指揮車》

指揮車は、各種の災害現場において指揮拠点の運用を目的とした車両です。指揮台や指揮旗等を積載し、現場全体の地理・水利・部隊の活動状況などを総合的に把握・判断し、指揮統制を行います。



【消防ポンプ自動車】

《消防ポンプ自動車》

消防ポンプ自動車は、消火栓や防火水槽といった水利から水を吸い上げ放水する、最も基本的な消防活動を行う車両で、他の消防車両への送水活動を実施することもあります。

また、C A F S（圧縮空気泡消火装置）を搭載した車両は、通常の水による消火に比べ泡の軽さ、密着性から水の消費量が少なく、消火水による損害も少なくなります。



【水槽付き消防ポンプ自動車】
【化学消防ポンプ自動車】

《水槽付き消防ポンプ自動車・化学消防ポンプ自動車》

水槽付き消防ポンプ自動車は、その名のとおりに、水槽（約2,000L）を装備しています。他の水利から水を吸い上げることなく放水することが可能なため、放水を始めるまでの時間が最も短く、一刻を争う火災現場近くに部署し、消火活動を行います。

また、泡消火薬剤と泡混合装置を備えた化学消防ポンプ自動車もあり、水では消火できない油脂・化学物質の火災にも対応できます。



【救助工作車】

《救助工作車》

救助工作車は、火災、交通事故、自然災害等で発生する救助活動に対応するための車両です。クレーンやウインチ、昇降式照明装置を装備し、油圧スプレッダーなどの破壊器具のほか、様々な救助資機材を積載しています。



【はしご車】

《はしご付消防自動車》

はしご付消防自動車は、主に高所での消防活動を行うための車両です。火災時には、高所に取り残された人の救出や高所からの放水活動を行います。また、各種イベント等で試乗体験を行うなど、住民にとって身近な車両の一つです。

当消防本部では 30m級のはしご車を羽咋消防署に配備しています。

《屈折式はしご付消防自動車》

屈折式はしご付消防自動車は、従来のはしご付消防自動車より大幅に小型化され、屈折・伸縮ブームを搭載しています。そのため、従来のはしご付消防自動車では進入できない狭い道路への進入や、電柱・電線・フェンスなどの高所にある障害も回避できるといった利点があります。

当消防本部では 15m級の屈折式はしご付消防自動車を志賀消防署に配備しています。



【屈折式はしご車】

《高規格救急自動車》

救急救命士制度の導入により、医療行為(特定行為)が、医師の指示の下であれば関係者等の同意を得て実施できるようになりました。

高規格救急自動車は、その医療行為に必要な資機材のほか、様々な傷病者の応急手当を行うための資機材、車内の振動を軽減する防振式ストレッチャーなどを備え、傷病者を医療機関へ搬送します。



【高規格救急自動車】

《救急普及啓発広報車》

救急普及啓発広報車は、救命講習会や屋外における防災訓練、各種イベント等において、応急手当の更なる普及啓発活動を目的とした車両です。車両右側面に液晶テレビを設置して心肺蘇生法や訓練資機材のデモ展示などを放映し、積載している人形で訓練を行うことができます。



【救急普及啓発広報車】

消防服紹介

【制服】

濃紺色で主に式典で使用しています。



【夏制服】

淡青色で長袖又は半袖があります。



【活動服】

服は難燃素材で作られており、襟、肩及び背中上部には、消防とわかりやすいようにオレンジ色が配色されています。



【救助服】

各所に補強が施してあり丈夫で動きやすく、災害現場で目立つようにオレンジ色の難燃素材となっています。



【救急服】

明るい灰色の難燃素材で作られており、清潔感を与える色合いになっています。



【感染防止衣】

ウイルスバリア性能レベル6以上を有した、リユースタイプ感染防止衣で、高い耐水性と透湿性を備え、厳しい環境化でも快適な状態を保護します。



【防火衣】

平成5年度からアルミクスタイプからコート型の布製防火衣となり、耐火性・耐熱性が向上しました。



平成19年度から導入した防火衣については、国際規格 ISO「アプローチA」(欧州法)に準拠したものです。ISO対応セパレート式とし、熱防護性レベルが格段に上がりました。



令和元年度から導入した防火衣については、国際標準化機構 ISO「アプローチA」(欧州法)及び財団法人日本防火協会の基準(消防隊員用個人防火装備のあり方について)をクリアしたものです。



前



後

腕章・胸章

【腕章】



【腕章に込められた想い】

3つの星は、構成市町である1市2町(羽咋市、宝達志水町、志賀町)を表し、月桂樹は、花言葉にある「栄光」「勝利」から、災害に打ち勝つことを意味します。

【水難救助隊腕章】



水難救助隊として任命された職員に交付されている腕章です。

【指導救命士胸章】



メディカルコントロールを担う医師との連携のもと、救急業務全般の教育指導を行う救命士として認定された職員に交付されている胸章です。

【予防技術資格者胸章】



建築物の大規模化・複雑化等に伴い高度化・専門化する予防業務を的確に行うため、火災の予防に関する高度な知識及び技術を有した予防技術資格者として認定されている職員に交付されている胸章です。

7 消防沿革

昭和45年（1970年）

10月 1日 羽咋市、押水町、志雄町、志賀町、高浜町及び富来町の1市5町が圏域の振興整備計画を共同して策定し、基本計画の実施に関する連絡調整を図る目的で、羽咋郡市広域市町村圏協議会を発足

昭和46年（1971年）

10月 1日 協議会が、羽咋郡市広域圏事務組合となる

昭和47年（1972年）

4月 1日 羽咋郡市広域圏事務組合が消防事務を共同処理することと定め、消防本部、羽咋消防署、南分署、志賀分署及び富来分署を設け、消防職員47名で発足
初代消防長に本吉二六（羽咋市助役）就任
羽咋市消防団、押水町消防団、志雄町消防団、志賀町消防団及び富来町消防団の5消防団が連合体を組織し、羽咋郡市消防団連合会が結成

7月 1日 第2代消防長に折戸寛雄就任

8月 1日 南分署、志賀分署及び富来分署の庁舎が完成し、それぞれに消防ポンプ自動車（2B型）が配置され、事実上の分署開設

10月25日 能登海浜有料道路の開通に伴い、石川県より救急自動車（2B型）の寄贈を受け、羽咋消防署に配置



【南分署】

昭和48年（1973年）

7月25日 南分署で救急業務を開始

8月17日 日本消防協会より救急自動車（2B型）の寄贈を受け、富来分署に配置

8月24日 富来分署で救急業務を開始



【消防団連合訓練大会（高浜小学校）】

昭和49年（1974年）

4月 1日 第3代消防長に今江時男就任

全国消防長会に加入

4月14日 羽咋ライオンズクラブより救急自動車（2B型）の寄贈を受け、羽咋消防署に配置

7月 5日 志賀分署で救急業務を開始

8月 1日 消防本部、羽咋消防署合同庁舎へ移転、業務を開始

8月 5日 消防本部、羽咋消防署合同庁舎竣工式

10月 3日 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈を受け、羽咋消防署に配置



【救急自動車（ライオンズ号）】



【消防本部・羽咋消防署合同庁舎】

昭和50年（1975年）

4月 8日 日本損害保険協会より救急自動車（2B型）の寄贈を受け、志賀分署に配置

昭和51年（1976年）

4月 1日 羽咋郡市広域圏事務組合に新たに環境衛生施設組合、厚生医療組合及び千里浜なぎさ公園組合が統合

- 7月 2日 日本消防協会より広報車の寄贈を受け、消防本部に配置
- 11月13日 南分署救急自動車、損傷により廃車
- 12月27日 救急自動車簡易型(2B型)を購入し、南分署に配置

昭和52年 (1977年)

- 1月12日 南分署救急自動車、損傷により廃車
- 4月 1日 全国消防協会に加入
- 5月 2日 救急自動車(2B型)を購入し、南分署に配置
- 6月 7日 羽咋郡市防火協会を設立
- 7月26日 羽咋市において石川県防災総合訓練を実施
- 9月21日 はしご付消防ポンプ自動車(18m級)を購入し、羽咋消防署に配置



【石川県総合防災訓練】

昭和53年 (1978年)

- 2月 3日 日本防火協会より鼓笛の寄贈を受け、富来町立増穂小学校、3月13日志賀町立高浜小学校、3月22日押水町立押水第一小学校において伝達式を実施
- 3月17日 日本防火協会より羽咋郡市少年婦人防火クラブに防火宣伝広報車の寄贈を受け、消防本部に配置
- 8月 2日 羽咋消防署普通消防ポンプ自動車を更新
- 10月 1日 昭和47年4月1日広域圏消防発足以来、職員は各市町の派遣職員の身分であったが、機能合理化を主眼として組合職員に身分を切替

昭和54年 (1979年)

- 3月25日 初期救急医療体制の一環として、日曜・祝祭日在宅医通報制を実施
- 4月19日 消防職員の身分切替に伴う「消防職員互助会」設立発足
- 8月24日 自治体消防30周年を記念して、「羽咋郡市消防のあゆみ」を編さんのため、委員会を組織



【石川県救助技術大会】

昭和55年 (1980年)

- 3月 7日 自治体消防30周年を記念して、「羽咋郡市消防のあゆみ」を発刊
- 4月 1日 第4代消防長に山本久二夫就任
- 12月11日 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、富来分署に配置

昭和56年 (1981年)

- 4月 1日 第5代消防長に揚見良平就任
- 12月22日 日本損害保険協会より救急自動車(2B型)の寄贈を受け、富来分署救急車を更新
- 12月26日 羽咋消防署水槽付消防ポンプ自動車を更新

昭和57年 (1982年)

- 8月13日 南分署、志賀分署、富来分署の事務室改修、拡張工事
- 8月19日 第11回全国消防技術大会(横浜市)に南分署ほふく救出チーム出場
- 10月14日 防火管理者講習会を本年度より実施
- 11月19日 南分署普通消防ポンプ自動車を更新
- 12月13日 志賀分署消防ポンプ自動車を更新

昭和58年（1983年）

- 3月 2日 日本損害保険協会より救急自動車(2 B型)が消防庁を通じて配分され、羽咋消防署救急車を更新
- 3月11日 富来分署普通消防ポンプ自動車を更新
- 6月 3日 警防査察車を2台購入し、消防本部及び南分署に配置
- 8月19日 第12回全国消防救助技術大会(大阪市)に南分署ほふく救出チーム出場
- 10月25日 日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受け、志賀分署に配置
- 10月31日 志賀分署及び富来分署の車庫、倉庫の増築工事

昭和59年（1984年）

- 2月16日 日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受け、志賀分署救急車を更新
- 6月11日 警防査察車を購入し、志賀分署に配置
- 8月24日 第13回全国消防救助技術大会(名古屋市)に南分署ほふく救出チーム出場
- 10月23日 志賀分署訓練場敷地舗装工事完了(640㎡)
- 11月 5日 南分署訓練場敷地舗装工事完了(540㎡)

昭和60年（1985年）

- 4月 1日 第6代消防長に宮本健治就任
- 5月15日 警防査察車を購入し、富来分署に配置
- 11月22日 日本自動車工業会より救急自動車(2 B型)の寄贈を受け、南分署に配置



【富来分署警防査察車】

昭和61年（1986年）

- 2月20日 富来分署無線基地局、車載移動局4局、携帯局5局を更新
- 5月12日 志賀分署救急自動車、損傷により廃車
- 7月 1日 防災通信ファクシミリを消防本部に配置
緊急電話自動録音装置を志賀分署、富来分署に取り付け
- 8月 1日 日本消防協会より羽咋市に寄贈された小型動力ポンプ積載車を羽咋消防署管理として配置
- 9月 5日 救急自動車(2 B型)を購入し、志賀分署に配置

昭和62年（1987年）

- 2月20日 羽咋消防署車載無線機2局、富来分署車載無線機1局を更新
- 4月 1日 第7代消防長に山田欣一就任
- 4月27日 防災通信ファクシミリを志賀分署、富来分署に配置
- 9月14日 羽咋消防署普通消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新
- 10月 5日 防災通信ファクシミリを南分署に設置、全署所に完備



【羽咋消防署普通消防ポンプ自動車(CD-I型)】

昭和63年（1988年）

- 1月 9日 志賀分署車載無線機2局を更新
- 4月 1日 原子力発電所等所在市町村消防情報連絡会に加入
- 8月19日 第17回全国消防救助技術大会(横浜市)に羽咋消防署引揚救助チーム、南分署ほふく救出チーム出場

昭和64年・平成元年(1989年)

- 1月 8日 元号を平成に改元

- 3月28日 富来分署救急自動車(2B型)を更新
- 4月 1日 第8代消防長に山本孝三就任
- 8月19日 第18回全国消防救助技術大会(名古屋市)に羽咋消防署引揚救助チーム出場
- 11月15日 南分署通信室防音設備工事完了

平成2年 (1990年)

- 3月20日 消防本部庁舎高压受電設備、自家発電設備工事完了
- 3月30日 消防本部庁舎通信指令室改装工事完了
- 8月29日 日本消防協会より指令広報車の寄贈を受け、消防本部に配置
- 9月18日 日本防火協会より婦人防火号の寄贈を受け、消防本部に配置
- 10月26日 はしご付消防ポンプ自動車(15m級)及び車載無線機を購入し、志賀分署に配置

平成3年 (1991年)

- 3月20日 消防業務用多重無線中継システム工事及び消防緊急情報総合システムⅡ型設置工事を完了し、試験運用を開始
- 4月 1日 第9代消防長に福浦俊雄就任
消防緊急情報総合システム本運用を開始
- 8月28日 第20回全国消防救助技術大会(大阪市)に羽咋消防署引揚救助チーム出場

平成4年 (1992年)

- 7月25日 羽咋消防署仮眠室冷房設備更新
- 8月28日 第21回全国消防救助技術大会(千葉市)に羽咋消防署引揚救助チーム出場
- 8月31日 消防本部庁舎便所改修工事完了
- 11月16日 南分署普通消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新

平成5年 (1993年)

- 6月 3日 第14回原子力発電所等所在市町村消防情報連絡会総会を当消防本部で開催
- 3月 8日 志賀分署通信受付室移設工事完了

平成6年 (1994年)

- 1月27日 羽咋消防署救急自動車(2B型)を更新
- 9月 5日 日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車の寄贈を受け、富来分署に配置し、水槽付消防ポンプ自動車を更新
- 10月 3日 救急救命士養成課程(救急救命東京研修所)に職員1名を派遣(～3月まで)

平成7年 (1995年)

- 1月18日 阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)に富来分署化学車で職員9名を応援派遣(～1月23日まで)
- 2月15日 救助工作車(Ⅱ型)を購入し、羽咋消防署に配置
- 5月31日 南分署警防査察車を更新
- 11月15日 志賀分署普通消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新



【羽咋消防署救助工作車(Ⅱ型)】

平成8年 (1996年)

- 3月25日 消防本部庁舎講堂、階段床貼替工事完了
- 3月29日 南分署庁舎改修工事完了
- 5月30日 志賀分署警防査察車を更新
- 8月25日 第25回全国消防救助技術大会(札幌市)ロープブリッジ渡過種目に職員1名

出場

- 10月 1日 消防職員委員会を設置
- 11月 1日 石川県消防防災ヘリコプター隊員に職員 1 名を派遣
- 11月26日 富来分署普通消防ポンプ自動車 (CD-I 型) を更新
- 12月13日 志賀分署救急自動車更新、高規格救急自動車を配置

平成9年 (1997年)

- 1月 1日 志賀分署で高規格救急自動車による救急業務を開始
- 4月 1日 消防職員定数97名となる
石川県消防防災ヘリコプター応援協定を締結
- 6月 7日 富来分署新庁舎落成式
- 6月 9日 富来分署新庁舎へ移転、業務を開始 (富来町里本江乙の189番地)
- 7月18日 富来分署警防査察車を更新
- 8月22日 第26回全国消防救助技術大会(千葉市)ロープブリッジ渡過種目に職員 1 名
出場
- 10月22日 羽咋市で石川県防災総合訓練を実施
- 11月26日 羽咋消防署救急自動車更新、高規格救急自動車を配置
- 12月 1日 羽咋消防署で高規格救急自動車による救急業務を開始
- 12月11日 羽咋消防署水槽付消防ポンプ自動車を更新し、化学消防ポンプ自動車 (II 型)
を配置

平成10年 (1998年)

- 4月 1日 第10代消防長に澤田一平就任
平成10年度、11年度原子力発電所等所在市町村消防情報連絡会の会長に当
消防本部消防長が就任、それに伴い当消防本部が連絡会事務局となる
- 10月19日 石川県消防長会秋季総会を羽咋市で開催

平成11年 (1999年)

- 2月25日 南分署救急自動車を更新し、高規格救急自動車を配置
- 3月10日 南分署で高規格救急自動車による救急業務を開始
- 3月12日 志賀分署水槽付消防ポンプ自動車 (II 型) を更新
- 11月29日 羽咋消防署18m級はしご付消防ポンプ自動車を更新し
30m級はしご付消防自動車を配置



【羽咋消防署 30m級はしご
付消防自動車】

平成12年 (2000年)

- 3月 8日 羽咋市消防団が日本消防協会から寄贈を受けた指揮広報車を消防本部に配置
- 4月 1日 第11代消防長に三宅郷一就任
- 6月20日 富来分署救急自動車を更新し、高規格救急自動車を配置
- 7月 1日 富来分署で高規格救急自動車による救急業務を開始
- 7月21日 羽咋消防署普通消防ポンプ自動車 (CD-I 型) を更新
- 10月20日 石川県より原子力防災活動資機材として被ばく患者・避難者搬送車の貸与を
受け、消防本部に配置

平成13年 (2001年)

- 1月31日 志賀分署庁舎改修工事完了
- 4月 1日 石川県消防学校教官に職員 1 名を派遣 (平成14年度末まで)

平成14年（2002年）

- 3月28日 消防業務用多重無線周波数変更（2GHz帯から7.5GHz帯）工事完了
4月1日 消防職員定数100名となる

平成15年（2003年）

- 4月1日 第12代消防長に紺野繁男就任
8月28日 第32回全国消防救助技術大会（仙台市）ロープブリッジ渡過種目に職員1名出場
11月28日 消防本部・羽咋消防署合同庁舎改修工事完了

平成16年（2004年）

- 3月5日 石川県より原子力防災活動資機材として広報車の貸与を受け、消防本部に配置

平成17年（2005年）

- 3月1日 押水町と志雄町の合併により、宝達志水町が誕生
4月1日 消防職員定数110名となる
組合執行機関が理事会制から組合長制に移行
消防本部組織が1課制（消防課）から3課制（庶務課、予防課、警防課）に移行
6月27日 水難救助隊発足（隊員10名）
9月1日 志賀町と富来町の合併により、志賀町が誕生
10月24日 水難救助用ボート購入し羽咋消防署に配置
11月29日 南分署普通消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新



【水難救助隊発足式】

平成18年（2006年）

- 3月16日 携帯電話からの119番通報が直接受信可能となる
4月1日 消防署組織が1署3分署から3署1分署に移行、羽咋消防署南分署が宝達志水消防署に、羽咋消防署志賀分署が志賀消防署に、羽咋消防署富来分署が志賀消防署富来分署となる
第13代消防長に岩城儀猛就任
石川県消防防災ヘリコプター隊員に職員1名を派遣（平成20年度末まで）

平成19年（2007年）

- 2月28日 宝達志水消防署庁舎増改築、耐震補強工事完了
化学消防ポンプ自動車（II型）を購入し、宝達志水消防署に配置
3月9日 志賀消防署高規格救急自動車を更新
4月1日 第14代消防長に高田昌信就任



【宝達志水消防署化学消防ポンプ自動車（II型）】

平成20年（2008年）

- 3月5日 羽咋消防署高規格救急自動車を更新
消防本部・羽咋消防署合同庁舎耐震補強関連工事完了
4月1日 第15代消防長に田頭善彦就任

平成21年（2009年）

- 3月31日 消防緊急指令システム設置工事を完了
4月1日 消防本部組織が3課制（庶務課、予防課、警防課）から2課制（予防課、警防課）に移行

石川県消防学校教官に職員 1 名を派遣（平成22年度末まで）
消防緊急指令システムの運用を開始

平成22年（2010年）

- 4月 1日 志賀消防署新庁舎へ移転、業務を開始
(志賀町西山台 1 丁目 1 番地)
- 5月13日 志賀消防署開署式を実施



【志賀消防署開署式】

平成23年（2011年）

- 2月24日 志賀消防署普通消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
- 3月 3日 宝達志水消防署高規格救急自動車を更新
- 3月11日 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生、3月12日から3月26日まで岩手県九戸郡野田村に緊急消防援助隊石川県隊として消火部隊（宝達志水化学車）1 隊、5 次隊延べ23名の隊員を派遣



【緊急消防援助隊石川県隊】

平成24年（2012年）

- 3月28日 石川県より原子力防災活動資機材として被ばく患者・避難者搬送車の貸与を受け、消防本部に配置
- 8月 7日 第41回全国消防救助技術大会（東京都）ほふく救出種目に富来分署職員 3 名出場

平成25年（2013年）

- 3月15日 羽咋消防署救助工作車（II型）を更新
- 3月31日 消防救急無線デジタル化整備に伴い西日本電信電話株式会社から草木基地局を取得
- 4月 1日 第16代消防長に山田政一就任
- 8月22日 第42回全国消防救助技術大会（広島市）ほふく救出種目に富来分署職員 3 名出場

平成26年（2014年）

- 2月20日 志賀消防署富来分署高規格救急自動車を更新
- 3月 4日 総務省消防庁より機動連絡車の貸与を受け、消防本部に配置
- 3月31日 消防救急無線デジタル化整備工事が完了
- 4月 1日 第17代消防長に安田稔就任
- 石川県消防防災ヘリコプター隊員に職員 1 名を派遣（平成28年度末まで）

平成27年（2015年）

- 3月20日 志賀消防署富来分署化学消防ポンプ自動車（II型）を更新

平成28年（2016年）

- 3月 7日 志賀消防署富来分署普通消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
- 12月15日 宝達志水消防署指揮自動車を更新

平成29年（2017年）

- 1月24日 志賀消防署高規格救急自動車を更新
- 4月 1日 第18代消防長に牧野秀雄就任
- 石川県消防学校教官に職員 1 名を派遣（平成30年度末まで）

平成30年（2018年）

- 2月 8日 羽咋消防署高規格救急自動車を更新
- 3月19日 志賀消防署屈折はしご付消防自動車を更新
- 3月22日 羽咋消防署化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を更新
- 7月19日 羽咋消防本部水難救助用ボートを更新
- 12月13日 宝達志水消防署非常電源設備設置



【志賀消防署屈折はしご付消防自動車】

平成31年・令和元年(2019年)

- 3月28日 羽咋消防署普通消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
消防緊急指令システム中間整備（指令制御装置の更新）
- 5月 1日 元号を令和に改元
- 9月17日 志賀消防署富来分署非常電源設備設置
- 12月末 世界中で新型コロナウイルス感染症拡大

令和2年（2020年）

- 2月28日 志賀消防署水槽付ポンプ自動車（Ⅱ型）を更新
- 4月 1日 消防職員定数116名となる
第19代消防長に松生正友就任
石川県消防防災グループ副隊長に職員1名を派遣（令和4年度末まで）
- 6月29日 羽咋ドローンズと災害時における無人航空機を活用した支援活動に関する協定を締結
- 11月 9日 （一財）救急振興財団より寄贈された救急普及啓発広報車を消防本部に配置
- 12月17日 宝達志水消防署高規格救急自動車を更新



【救急普及啓発広報車】

令和3年（2021年）

- 3月 1日 NET119運用開始
- 3月31日 消防緊急指令システム中間整備（情報系制御装置、ネットワーク系機器、無停電電源装置更新）
- 4月 1日 消防本部組織が2課制（予防課、警防課）から3課制（消防総務課、予防課、警防課）に移行
警防課通信指令室を廃止し、警防課情報指令係を設置
警防課に特殊災害対策係を設置
消防署、分署に特殊災害対策担当を設置
消防署、分署における庶務係、警防係、予防係、救急係、救助係、施設指導係を廃止し、警備係を設置
交替制勤務を2部制から3部制へ変更
- 6月19日 第50回羽咋郡市消防団連合会連合訓練記念大会実施及び記念誌発刊



【第50回羽咋郡市消防団連合会連合訓練記念大会記念誌】

令和4年（2022年）

- 3月28日 七尾市と当事務組合が、消防通信指令に関する事務を共同で実施するための基本的事項について合意書に調印

8 業務紹介

警防業務

警防業務は、火災やその他の災害から住民の生命・身体及び財産を保護し、その被害を軽減することを目的としています。実災害を想定した定期的な訓練、消防団や関係機関等との合同訓練も行い、連携協力体制の強化を図り、的確かつ迅速な災害対応を実現しています。



《車両機械器具の点検整備》

日頃から資機材・車両・水利等の点検・維持管理を行い、実災害の対応に備えています。

また、災害現場で消防自動車や機械器具を安全かつ確実に使用できるように訓練を実施しています。



《消防水利点検》

消防力の三要素が人員・施設・水利と言われるように、消火活動を行うためには、消防水利が必要不可欠です。迅速に消火活動が行えるよう消防団員等にも協力を図り、定期的に消防水利点検を行っており、積雪時には、消火栓周囲の除雪を行うなど災害に備えています。

当管内には、消火栓：1,417基、防火水槽：536基（令和4年4月1日現在）が整備されています。



《火災防ぎょ訓練》

実火災を想定し、消火活動や屋内への進入要領、防火シャッターなどの破壊訓練などを行い、安全・確実・迅速に活動できるように定期的に訓練を実施しています。



《特殊災害対応訓練》

特殊災害とは、核 (Nuclear)、生物 (Biological)、化学物質 (Chemical) のテロ等による特殊災害です。

自らの安全確保のために空気呼吸器や化学防護服といった装備の着装とガス検知器等の資機材を使用します。また、被害拡大防止のため警戒区域の設定、要救助者等の救出、除染及び原因物質の回収といった状況を想定し、活動がスムーズにできるよう訓練を行っています。





《文化財防火デーに伴う火災防ぎょ訓練》

文化財防火デーとは、昭和24年1月26日に現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂で火災が発生し、壁画が焼損したことを受け、文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、日本国民の文化財愛護思想の高揚を図るため制定されました。そのため、毎年この時期を中心に文化財防火運動を展開し、各市町消防団、自警団と合同で毎年1月に火災防ぎょ訓練を行っています。

《志賀原子力発電所対応訓練》

当消防本部の管内には、原子力発電所があるため、東日本大震災のような自然災害と原子力災害が重なった複合災害となる可能性も考えられます。現在、原子力発電所は運転停止中ですが、自然災害や火災から原子力災害が発生する可能性があることから、対応マニュアル等を策定し、防災資機材の点検・取扱方法を熟知させ、実災害に備えています。



《水防訓練》

水防訓練は、台風や大雨で発生することが予想される河川の氾濫等の水害に対応するため行っている訓練です。代表的な水防工法として、積土のう工法があります。

積土のう工法は、堤防に土のうを積み、高さを確保することで、堤防から水があふれることを防ぐことができます。

《特別消防対策区域》

平成28年12月22日に新潟県糸魚川市で発生した大規模火災を受け、当消防本部においても気象条件（乾燥、強風注意報等）と木造建築物の密集度、地形及び道路状況を総合的に検討し、「特別消防対策区域」を定めました。火災防ぎょ活動の困難性、延焼拡大の危険性が高いことから特別な消防対策を必要とする区域となっています。当消防本部の「特別消防対策区域」は下記のとおりです。

羽咋市：5区域			
区域名称	位置	区域の主な特性	区域署所
羽咋中央地区	国道249号線から羽咋駅までの東側一帯	木造建築物密集 道路狭隘、車両進入困難	羽咋消防署
羽咋西部・千里浜地区	国道249号線から西側一帯		
千路町	JR七尾線から南側一帯		
滝町	国道249号線から南西側一帯		
柴垣町	国道249号線から西側一帯		

宝達志水町：2区域			
区域名称	位置	区域の主な特性	区域署所
子浦荻市	国道159号線子浦北交差点から荻市交差点の東側一帯	木造建築物密集	宝達志水消防署
今浜	今浜大通りから北側一帯及び南側沿い	木造建築物密集 道路狭隘	

志賀町：4区域			
区域名称	位置	区域の主な特性	区域署所
高浜町	はまなす大通りから北西側一帯	木造建築物密集 道路狭隘	志賀消防署
富来地区	国道249号線から東側一帯	木造建築物密集、強風 日中は西風、夜間は東風	志賀消防署 富来分署
福浦港地区	主要地方道志賀・富来線（福浦バイパス）から西側一帯	木造建築物密集、道路狭隘	
西海地区	主要地方道深谷・中浜線から北側、南側一帯		

予防業務

予防業務は、火災の発生を未然に防ぎ、また発生した際の被害を最小限にとどめるために重要な業務です。あらゆる仕事場、公衆の出入りする事業所等（防火対象物）やガソリン、灯油などの危険物を大量に貯蔵、または取扱う施設（危険物施設）の安全性を建設前の段階からチェックし、立入検査や各種届出の確認により継続して安全性の確保に努めています。

また、圏域住民や企業、関係団体と協力して火災予防の推進を図り、安全・安心なまちづくりを目指しています。



《危険物規制》

危険物が流出した場合、生活環境等に与える影響が大であるため、危険物施設の安全は、消防法に定められた厳しい技術基準によって守られています。施設の設置や変更の計画段階から位置・構造・設備について審査を行い、中間検査、完成検査を通じて技術上の基準に適合しているかを確認し、保安体制の確立を図っています。

《火災原因調査》

火災の原因を明らかにし住民に周知することで、類似火災及び損害の防止を図るため、消防は、消火活動と並行して原因及び損害の調査に着手しなければなりません。調査では、関係者等へ質問及び資料の提出を求め、警察等の関係機関と協力し、火災現場に残されたわずかな痕跡から出火原因を究明しています。



《査察》

消防法に基づいて防火対象物等への立入検査を実施します。消火器やスプリンクラー、自動火災報知設備といった消防用設備等の設置、維持管理、避難経路の状況、さらに防火管理体制を厳しく見定め、法令違反があれば早期改善を促す指導を行っています。

《予防広報》

街頭宣伝や防火ポスターの掲示、防火出前講座、避難訓練指導など、防火・防災に関する知識、意欲を高めるための広報活動を行います。

災害を未然に防ぐ、または発生した災害の被害を軽減するための備えを促す重要な役割を担っています。



【郵便局とタイアップした広報活動の様子】



【ペットボトルによる広報活動の様子】

※ペットボトル
ペットボトルの中に太陽光パネル、LED、蓄電池が入っており、日中に充電した電気を使い、夜になると発光する。

《住宅用火災警報器の設置及び維持管理の推進》

住宅用火災警報器は、平成16年の消防法改正から始まり平成20年6月1日から既存住宅への設置が義務化されました。現在普及している住宅用火災警報器の多くは電池式であり、その電池の寿命は10年とされています。住宅用火災警報器の電池切れ等が原因となり、万が一の火災発生時に警報音が鳴らないことがないように、定期的に作動点検を実施、本体の交換を推奨するなど、適切な維持管理の更なる働きかけを行っています。



【住警器戸別訪問の様子】

【10月10日は、住警器 点検の日】



【住宅用火災警報器 標語ポスター】

救急業務



救急業務は消防行政の中では比較的新しい分野で、日本では昭和8年に神奈川県警察部が横浜消防署で始めました。その後、昭和38年に業務として法制化され、当広域圏内においては、羽咋市が昭和44年に開始しました。

環境や生活様式の変化等があり、救急需要は多様化しています。救急業務を安定的かつ持続的に提供し救命率の向上を図るために、今後も救急救命士の常時2名乗車体制を推進し、圏域住民の救命率向上を目標に救急業務を実施します。



《応急手当普及啓発》

事故などにあった人が心肺停止になったとき、その人を助けるためには、そばに居合わせた人が応急手当を行うことが重要となります。そのため、応急手当普及員講習会、普通救命講習などの講習会を実施し、応急手当の重要性を圏域住民に普及啓発しています。



《石川県ドクターヘリ》

ドクターヘリとは、救急医療用の医療機器等を装備したヘリコプターで、救急医療を専門とする医師及び看護師等が同乗し郡市内のランデブーポイントに向かい、医療機関へ搬送するまでの間、傷病者に救急医療を行うことができる専用のヘリコプターです。

石川県は平成30年9月24日より、基地病院を石川県立中央病院として運航が開始されました。

救助業務



救助業務とは、災害や事故により生命又は身体に危険が及んでいる要救助者を救助資機材等により救助・救命することを目的としています。

救助隊は、あらゆる危険性の中において、災害内容を迅速かつ冷静に判断し、救助資機材を十分に活用して人命救助を最優先し活動しています。

《救助工作車の資機材取扱訓練》

毎年、自動車解体業者の協力のもと、廃車予定の自動車を提供していただき、若手職員を対象とした救助工作車の資機材取扱訓練を実施しています。油圧スプレッダーや油圧カッター等の救助器具を用いてドアやルーフの開放、クレーンを使用した自動車の吊り上げ方法などを学び、安全・確実に要救助者を車外へ救出するよう実災害に備えています。



《山地救助訓練》

当消防本部では、能登半島の最高峰である宝達山（標高637m）を管轄しています。登山等での体調不良、滑落や転倒が起きた際に要救助者を的確、迅速に救助するための訓練をしています。山地という特殊な環境と二次災害が発生する危険性も高いため、職員は安全管理を徹底して訓練に臨んでいます。

《出入口狭隘時の救助活動》

当消防本部には、出入口が狭い場合に使用するマンホール救助器具等の救助資機材を保有しています。マンホールや地下での墜落・酸欠事故において、要救助者を人力で垂直に引き揚げ救出することや重量物に要救助者が下敷きになった場合に吊り上げ救出を行います。また、解体予定の建物を提供してもらい、実際に床や扉を破壊するなど実災害を想定した訓練も実施しています。



水難救助業務

水難救助は海での遊泳や河川・ため池への転落等により、水難事故にあった人の救助・捜索を行い、海岸線、河川等の安全・安心を守っています。

当事務組合の構成市町は全てが海岸線に面しており、羽咋市（千里浜）から宝達志水町（今浜）に至る砂浜の全長約8kmの車で走れる千里浜なぎさドライブウェイ、志賀町のヤセの断崖（笹波）を含む約30kmにわたり奇岩、断崖の連続する海岸など、観光地として多くの方が訪れています。



羽咋郡市広域圏事務組合消防本部水難救助隊は、各署所の消防吏員からなり、兼任隊員として消防長から任命され活動を行っています。

水難救助隊は平成17年6月27日に10名の隊員で発足し、現在17名（令和4年4月1日現在）が任命されており、訓練及び自己研鑽に励み、水難事故に備えています。また、夏季シーズンには水難事故発生を防止するため、広報活動なども実施しています。

水難救助隊の装備資機材として、潜水器具、水中画像探査装置、船外機付き救命ボート、水中無線機、レスキューボードなどを保有しています。当管内で発生した水難事故に対応できるよう保有する資機材を有効活用し、人命の救助にあたっています。

また、石川県消防防災航空隊や海上保安庁と連携した活動も展開しています。

近年の河川氾濫などの災害に対しても水難救助隊の資機材を活用し、圏域住民の避難誘導や人命救助に重要な役割を担っています。



消防救助技術訓練大会



消防救助技術訓練大会は、救助技術の高度化に必要な基本的要素を練磨することを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、国民が消防に寄せる期待に力強く応えることを目的としています。



《全国大会出場歴》

年	種目	隊員名
昭和57年	南分署ほふく救出チーム出場	松井裕治、口野繁治、北野裕
昭和58年	南分署ほふく救出チーム出場	松井裕治、口野繁治、北野裕
昭和59年	南分署ほふく救出チーム出場	松井裕治、口野繁治、北野裕
昭和63年	羽咋消防署引揚救助チーム出場 南分署ほふく救出チーム出場	安田稔、北山敏信、村上裕一、松生正友、藤森敏之 北野裕、東間景明、西澤司
平成元年	羽咋消防署引揚救助チーム出場	安田稔、北山敏信、村上裕一、松生正友、藤森敏之
平成3年	羽咋消防署引揚救助チーム出場	安田稔、北山敏信、村上裕一、松本(潟辺)裕、藤森敏之
平成4年	羽咋消防署引揚救助チーム出場	安田稔、村上裕一、松本裕、北英浩、藤森敏之
平成8年	ロープブリッジ渡過出場	中本義久
平成9年	ロープブリッジ渡過出場	中本義久
平成15年	ロープブリッジ渡過出場	中本義久
平成24年	富来分署ほふく救出チーム出場	出村昌寛、細川智司、小堀真幸
平成25年	富来分署ほふく救出チーム出場	細川智司、余海亮太、清水廉
平成26年	はしご登はん出場	米村康成（広島豪雨土砂災害に伴い中止）
平成30年	宝達志水消防署ほふく救出チーム出場	木村優仁、中橋昂介、階戸琢巳（台風接近に伴い中止）

消防通信業務



コンピューターと通信ネットワーク技術等を活用して、災害窓口である119番通報を受信し、消防隊や救急隊へ出動指令を送出しています。心肺停止が疑われる救急事案では、救急車が到着する約8分（全国平均）の間、心臓マッサージ等の口頭指導を行い、救命に努めています。また、出動隊や防災関係機関との通信、災害情報の収集を行い、出動隊と連携を行っています。広報活動としては災害情報をテレホンサービスやホームページで提供しています。

※テレホンサービス 電話：0767-22-2999

《通信システム構成機器》

平成21年4月に高機能消防指令システムに更新し、平成26年3月に消防救急デジタル無線を整備しました。位置情報通知システムによる119番通報者の位置特定や車両運用表示盤による出動車両の把握をするなど、多くの機器を活用しながら、的確かつ迅速な災害対応を行っています。



《聴覚障がい者等のために》

聴覚や言語に障がいのある方でも、携帯電話やスマートフォンのインターネット機能で通報できるようNET119緊急通報システムを導入しました。（令和3年3月1日運用開始）

その他、専用FAXによる聴覚障害者緊急通報にも対応しており、市町の手話通訳者や要約筆記者とも協力し活動しています。

緊急消防援助隊

《緊急消防援助隊とは》

阪神・淡路大震災において得た人命救助活動等を行う応援部隊の早期出動の必要性等を教訓とし、平成7年度に創設されました。

大規模災害又は特殊災害が発生し、被災地の消防機関では対処できない場合に、各都道府県の消防機関から出動します。

近年では、東日本大震災を上回る被害が想定される南海トラフ地震等に備え、大規模かつ迅速な部隊投入の必要性から、令和5年度末までに登録目標隊数を概ね6,600隊規模に大幅増隊することになっています。

《緊急消防援助隊（当消防本部）の出動実績》

緊急消防援助隊が創設前に発生した阪神・淡路大震災では、当消防本部から応援部隊として消防隊1隊が出動し活動しています。

緊急消防援助隊が創設してからは、新潟県中越地震と東日本大震災に応援出動しています。新潟県中越地震では、救急小隊1隊を派遣し活動しています。また、東日本大震災では消火小隊1隊を5次隊まで派遣し活動しています。

《緊急消防援助隊の主な出動実績》

災害名	出動隊数	出動人員
平成16年 新潟県中越地震	480 隊	2,121 名
平成19年 能登半島地震	87 隊	349 名
平成23年 東日本大震災	8,854 隊	30,684 名
平成26年 御嶽山噴火災害	547 隊	2,171 名
平成28年 熊本地震	1,644 隊	5,497 名
平成30年 7月豪雨	1,383 隊	5,385 名

災害名	出動隊数	出動人員
平成16年 新潟県中越地震	救急小隊 1 隊	3 名
平成23年 東日本大震災	消火小隊 1 隊 5 次隊まで派遣	23 名



【東日本大震災 車両、人員集結時の状況】

9 関係団体紹介

羽咋郡市防火協会

羽咋郡市防火協会は、事業所における防災体制の強化推進、防火思想の普及を目的として、昭和52年6月7日に設立されました。現在は消防関係法令の適用を受ける事業所等を中心に287事業所（令和4年4月1日現在）が加入しています。

消防機関と連携し、街頭宣伝等での防火・防災広報物品の配布、防災はくいの発行配布、住宅用火災警報器の設置・取替促進、各種危険物関係資格試験の案内、優良事業所・優良従業員・協会功労者の表彰等、防火防災活動に寄与しています。



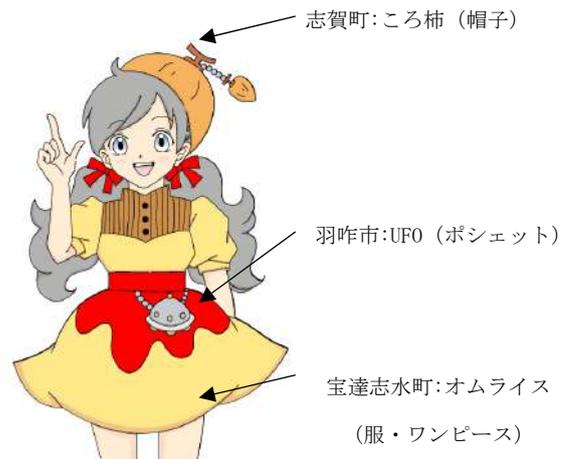
【街頭宣伝の様子】

《火災予防PRキャラクター かさいしょうか》

ちょっとした不注意からの住宅火災を防止する、また、火災が発生してしまった場合、被害を最小限に食い止めるため、住民から親しみ・興味を持ってもらえる広報活動について検討し、令和3年度、羽咋郡市防火協会火災予防PRキャラクター「かさいしょうか」ちゃんを作成しました。

キャラクターには、衣服などに1市2町のイメージを付与しており、（羽咋市:UF0、宝達志水町:オムライス、志賀町:ころ柿）地域に密着した愛されるデザインとなっています。

ポスターや広報物品等に起用し、火災予防運動期間等での配布や、ホームページ、各市町広報誌への掲載など幅広く広報活動を行っています。その一環で、コロナ禍における防火協会事業の一部縮小に伴う代替事業として、消防本部庁舎前に「かさいしょうか」ちゃんを描いた火災予防広報用の大型看板を設置しました。看板には「守ろう！わが町 火災ゼロ」のスローガンを掲げ、通学の小中学生や通行車両等、多くの住民の目に留まり、常日頃からの火災予防意識の普及啓発を図っています。



【かさいしょうか】



【火災予防広報用大型看板】

女性防火クラブ

4団体 44名の女性防火クラブ員がおり、地域における火災予防の担い手として、火災予防に関する知識の習得、住宅用火災警報器の維持管理及び地域全体の防災意識の高揚等を目的に活動しています。

女性防火クラブ	結成年月日
滝町女性防火クラブ(羽咋市)	昭和35年3月12日
千里浜町女性防火クラブ(羽咋市)	昭和55年3月11日
鹿島路町女性防火クラブ(羽咋市)	平成7年4月1日
前浜女性防火クラブ(志賀町)	昭和57年4月5日



【前浜女性防火クラブ】

幼年消防クラブ

5団体295名の幼年消防クラブ員がおり、幼稚園や保育所等において、防災意識を高め、火の恐ろしさ等を知り、災害時の身の守り方を学び、家庭から地域における防災思想の普及が効果的に図れるよう取り組んでいます。



【幼年消防クラブ鼓笛隊】

幼年消防クラブ名	結成年月日
羽咋幼稚園幼年消防クラブ	昭和60年6月13日
羽咋市立千里浜保育所幼年消防クラブ	平成9年6月1日
宝達志水町立南部保育所幼年消防クラブ	昭和63年4月8日
宝達志水町立中央保育所幼年消防クラブ	平成元年4月8日
志賀町立とぎ保育園幼年消防クラブ	令和4年5月23日(予定)

羽咋ドローンズ

災害時における無人航空機(ドローン)を活用した空からの情報収集を行うため、令和2年6月29日に、民間団体『羽咋ドローンズ』と協定を締結しました。県内の消防本部がドローンを使った支援で民間団体と協定を結ぶのは初めてで、立ち入り困難な自然災害や大規模事故現場の状況把握、行方不明者の捜索等に協力してもらっています。



【羽咋ドローンズとの協定締結】

自主防災組織(自警団、自衛消防隊)

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」といった自主的に結成した組織をいいます。大規模災害が発生した場合、被害の拡大を防ぐためには、都道府県や市町村では対応に限界があり、地域住民などが互いに協力し助け合いながら、火災・地震・風水害等の防災活動に取り組んでいます。



【大福寺自警団（志賀町）】

【主な活動内容】

- 地域防災訓練の実施
(救急救命訓練、防災チラシの全戸配布)
- 石川県防災総合訓練への参加
(倒壊家屋救出訓練、初期消火訓練)
- 消火栓取扱い方法及び放水訓練
- 要援護者の避難誘導訓練
- 研修会等に参加し、地域住民への指導



【久保町自警団（宝達志水町）】

石川県消防防災航空隊(消防防災ヘリコプター「はくさん」)

平成9年4月23日から運用開始しており、小松空港内に基地を有しています。上空からの情報収集・消火活動・山岳や水難等の救助活動・救急活動・人命捜索等の様々な災害に対応しています。

訓練や災害時、幾度となく連携・協力し活動しています。



【消防防災ヘリコプター「はくさん」】

<航空隊派遣期間及び派遣職員>

平成8年10月～平成12年3月	隊員	松本 裕
平成18年4月～平成21年3月	隊員	中本 義久
平成26年4月～平成29年3月	隊員	野澤 博史
令和2年4月～令和5年3月	副隊長	谷口 智一

消防団

消防団は、消火活動のみならず、地震や風水害などの自然災害等において、多数の動員を必要とする大規模災害時の救助、避難誘導、警戒活動等、非常に重要な役割を果たしています。また、いざという時に備える各種訓練や、特別警戒等の活動を通じて、地域の安全、安心の確保に尽力しています。



【羽咋市消防出初式】



【水防訓練（積土のう工法）】



【文化財防火デーに伴う訓練】



【志賀町消防出初式】

羽咋郡市消防団連合会

この会は、消防団相互の連絡親睦を深めるとともに、消防情報を交換し、知識技術の向上を図り、消防の技術発展に寄与することを目的とし、昭和47年4月1日に設立されました。

当初、羽咋市消防団、押水町消防団、志雄町消防団、志賀町消防団及び富来町消防団の5消防団による連合体として組織されましたが、平成17年に行われた市町村合併に伴い現在は羽咋市消防団、宝達志水町消防団、志賀町消防団の3消防団で構成されています。

《連合訓練大会》

羽咋郡市消防団員の親睦を図るとともに、日頃の訓練により練磨した消防規律及び技能を広く公開し、団員の士気高揚に努めることを目的として実施しています。令和3年には、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止となりましたが、記念すべき第50回大会という節目を迎えました。



【ポンプ車操法】



【小隊訓練】



【羽咋郡市全分団の整列】

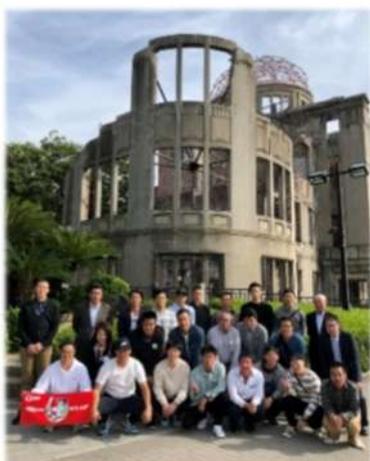
消防職員互助会



【互助会野球部】

消防職員互助会は、会員相互の共済、親睦及び福利厚生を増進を図ることを目的とし、クラブ活動（野球、サッカー等）、駅伝などを行っています。また、結婚祝い金や出産祝い金などの慶弔金の給付なども行っています。

その他、2年に1度、消防職員の親睦を深めるため、互助会旅行を行っています。所属間の分け隔てない人間関係を築くことが、災害現場での連携活動へと繋がっています。



【互助会旅行：平和記念公園（広島県）】



【互助会旅行：錦帯橋（山口県）】

羽咋消防綱引クラブは、消防救助技術大会のオフシーズンの練習に綱引きを取り入れたことをきっかけとして昭和60年から始まりました。

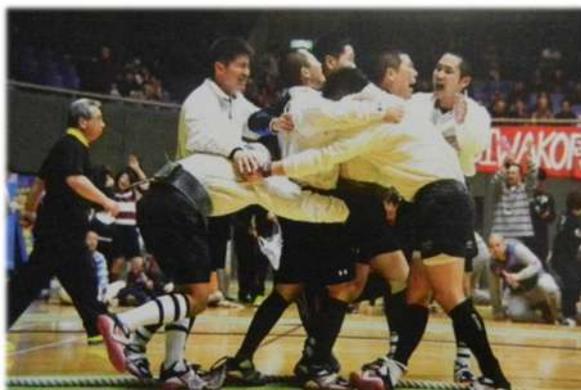
平成25年に就任した松本裕監督の下、『難関突破』をスローガンに掲げて練習を重ね、この年を最後と決めすべてを賭けた平成30年3月、全日本決勝で京都市消防局の『京都消防ろぶすたあ』に勝利し悲願の日本一を達成、33年間の歴史に幕を閉じました。



【羽咋消防綱引クラブ】



【全日本綱引選手権大会 表彰式の様子】



【全日本綱引選手権大会 優勝時の様子】

消防職員意見発表会

年に一度、消防職員が業務に対する提言や取り組むべき課題などについて自由に発表し、消防業務の諸問題に関する一層の知識の研鑽や意識の高揚を図ることを目的として開催されています。

石川県消防職員意見発表会では、県内の各消防本部から選抜された職員が5分間のスピーチを行い、発表内容や表現力などが審査され、全国消防長会東近畿支部消防職員意見発表会に参加する代表者を選出します。その後、同様に全国消防長会各支部から選出された代表者たちが全国消防職員意見発表会で発表し表彰者が決定されます。

《当消防本部の石川県消防職員意見発表会への出場者》

第1回 三谷 正弘	第16回 山下 和人	第31回 葉佐 暁
第2回 浦 外明	第17回 北 英浩	第32回 耶雲 亮志
第3回 牧野 秀雄	第18回 松本 圭介	第33回 田中 壮大
第4回 東間 景明	第19回 蟹屋敷 悟	第34回 福本 洋輔
第5回 福田 和人	第20回 村井 正仁	第35回 清水 廉
第6回 上嶋 平治	第21回 松田 行雄	第36回 木村 優仁
第7回 村上 裕一	第22回 濱名 毅幸	第37回 山科 拓也
第8回 村上 俊一	第23回 北山 慎也	第38回 高田 真士
第9回 福田 和人	第24回 半山 武志	第39回 表 晋太郎
第10回 松生 正友	第25回 小澤 亮介	第40回 階戸 琢巳
第11回 吉田 雅信	第26回 太川 紀元	
第12回 加藤 保	第27回 藤井 義徳	
第13回 西澤 司	第28回 岡山 秀一	
第14回 本田 友也	第29回 北山 雅大	
第15回 池田 隆	第30回 坂元 光	

※昭和57年第1回石川県消防職員意見発表会開催

《当消防本部の東近畿支部への代表選出者》

- 三谷 正弘 「海難救助の体験」
- 岡山 秀一 「ミッシングリンク」
- 山科 拓也 「防災 Family Walking～たくさんの目と心で～」
- 表 晋太郎 「VUCA の時代の中で心に寄り添う」

《当消防本部の全国への代表選出者》

- 三谷 正弘 「海難救助の体験」

10 これからの組合消防

消防通信指令事務共同運用に向けて

以前の119番通報は、各署所で通報を受信し対応していましたが、平成3年4月から消防緊急情報総合システムが運用され、羽咋郡市管内の災害通報の受付を災害発生場所、災害種別、ならびに出動区分等を入力すると、コンピューターにより処理されて指令業務が的確・迅速に行われるようになりました。

その後、平成21年4月には現在の高機能消防指令システムの運用を開始し、119番通報時に場所が特定できる位置情報通知システム等、通信指令室は時代とともに進歩してまいりました。



【羽咋消防署 通信室】



【平成3年4月運用 通信指令室】

現在の指令システムは、平成21年に運用を開始し、令和8年には耐用年数に達することから、新たな指令センターの在り方を検討していく必要があります。

消防通信指令事務は、これまで消防本部ごとに指令センターを単独で整備し運用してきましたが、昨今の複雑多様化する災害形態においては、区域を越えた広域的な災害対応が求められています。

広域的な災害対応力の強化及び行財政面の効率化を図るため、令和3年5月に当組合消防から働きかけ七尾鹿島消防本部との共同指令センター運用（令和7年4月運用開始目標）に向けた取り組みがスタートしました。

両消防本部職員によるワーキンググループ会議を重ね、令和4年3月28日には、羽咋郡市広域圏事務組合長と七尾市長による消防通信指令事務共同運用に係る基本的事項に関する合意書調印式を執り行いました。

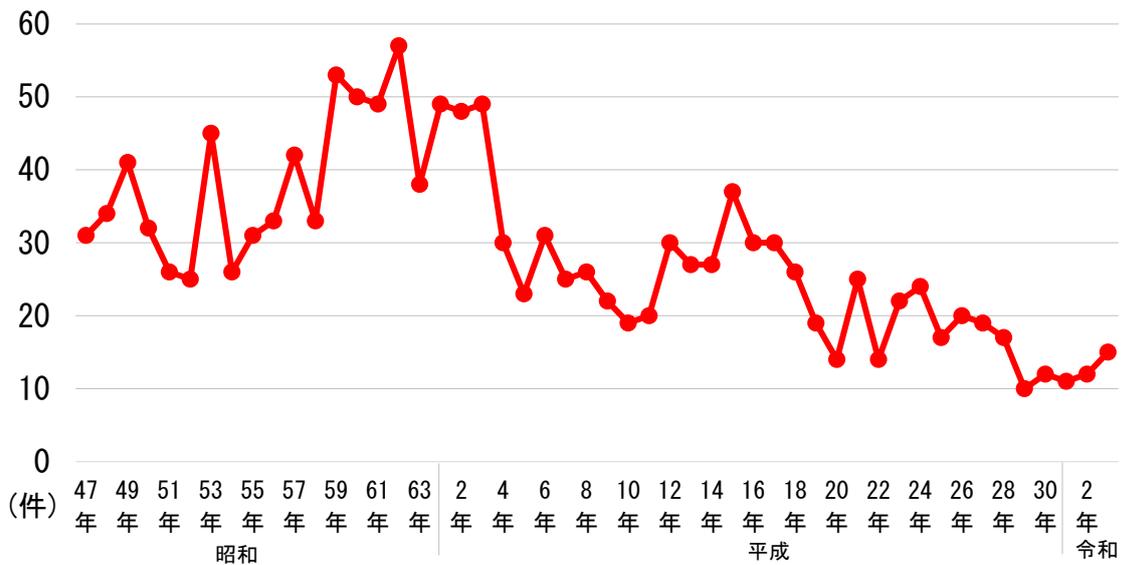
人口減少の進行により、人的・財政的な資源が限られる一方で、持続可能な消防体制を整備・確立し、消防需要に適切に対応すべく未来へと歩み進めていきます。



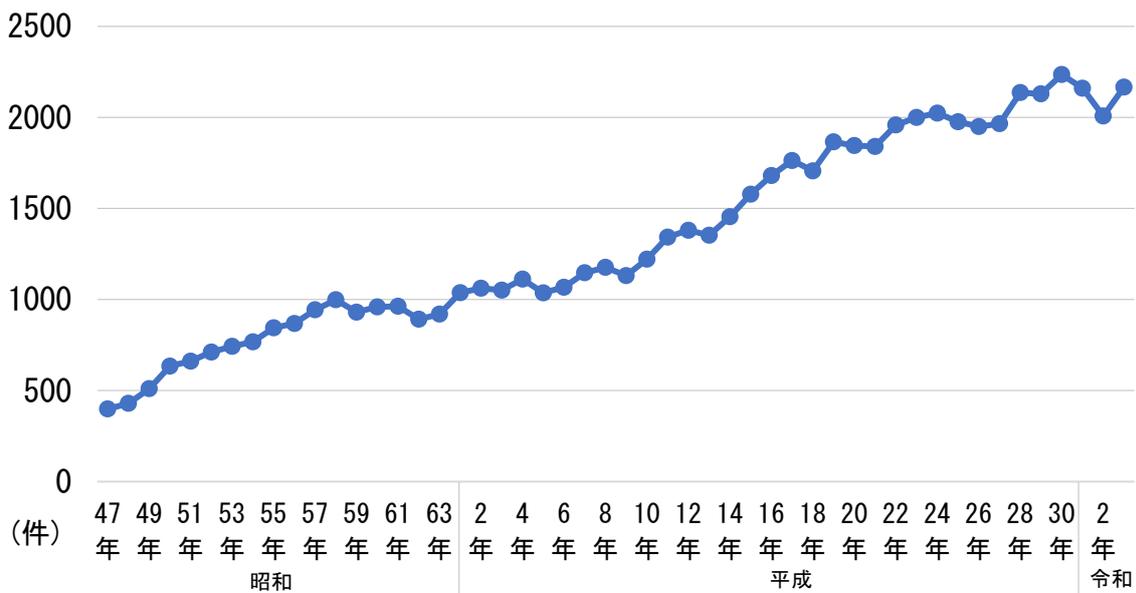
【令和4年3月28日 合意書調印式】

11 統計の推移

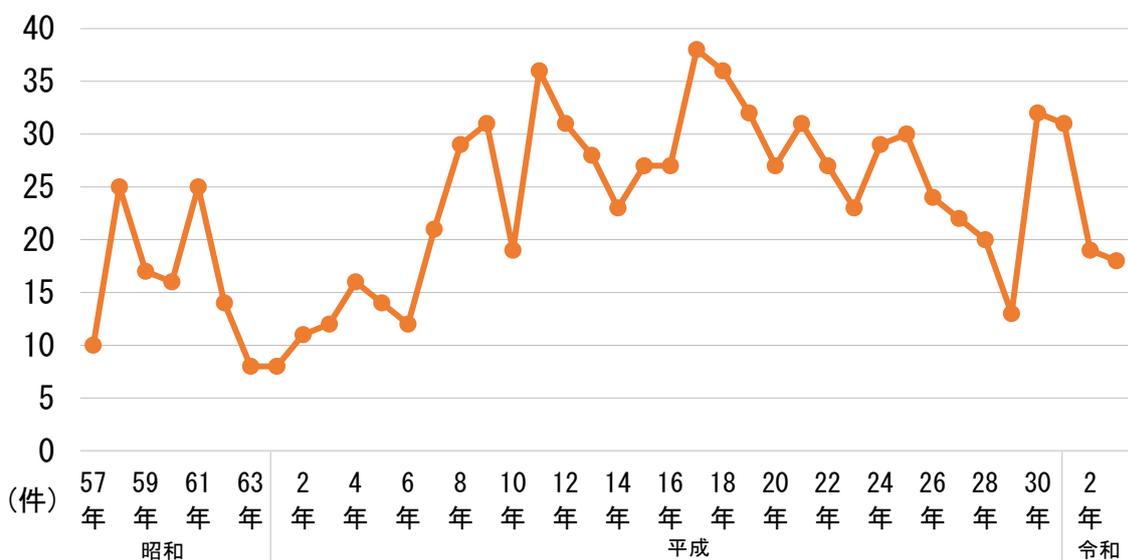
過去50年間の火災件数



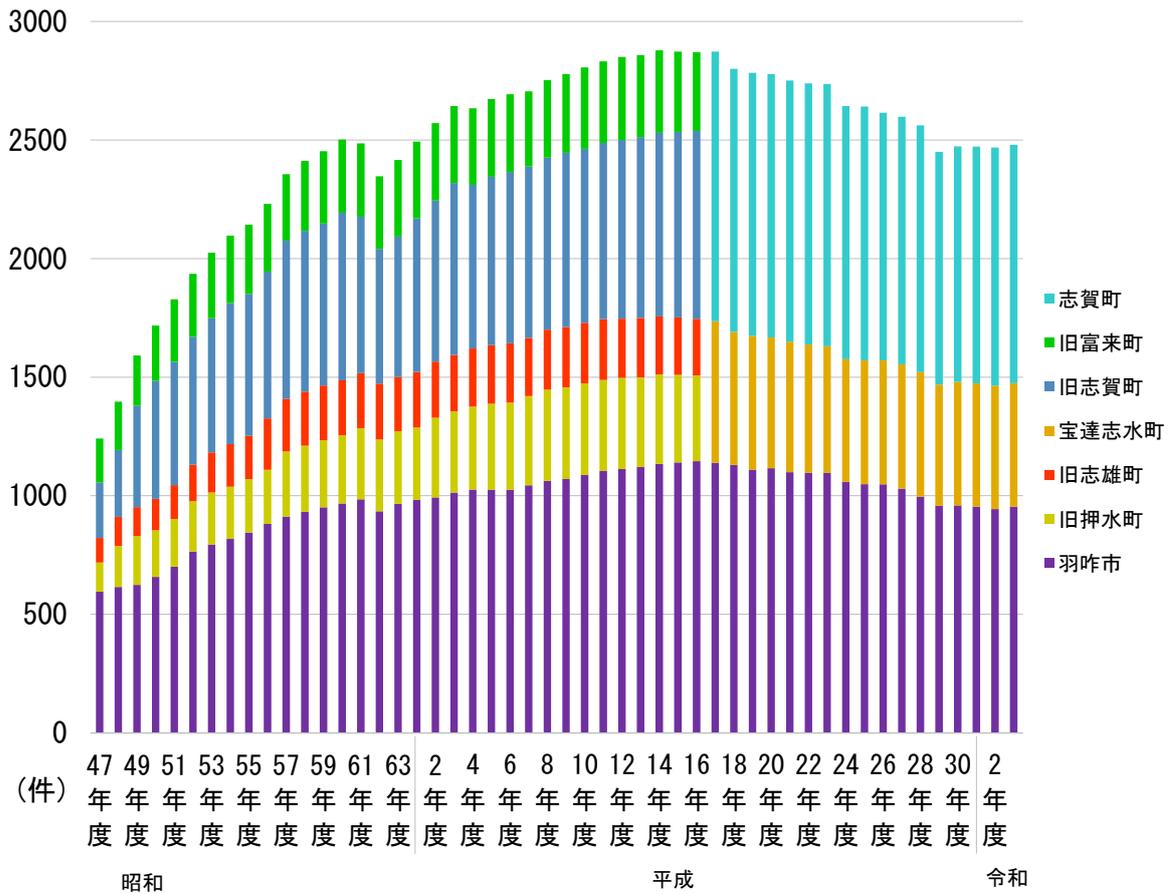
過去50年間の救急出動件数



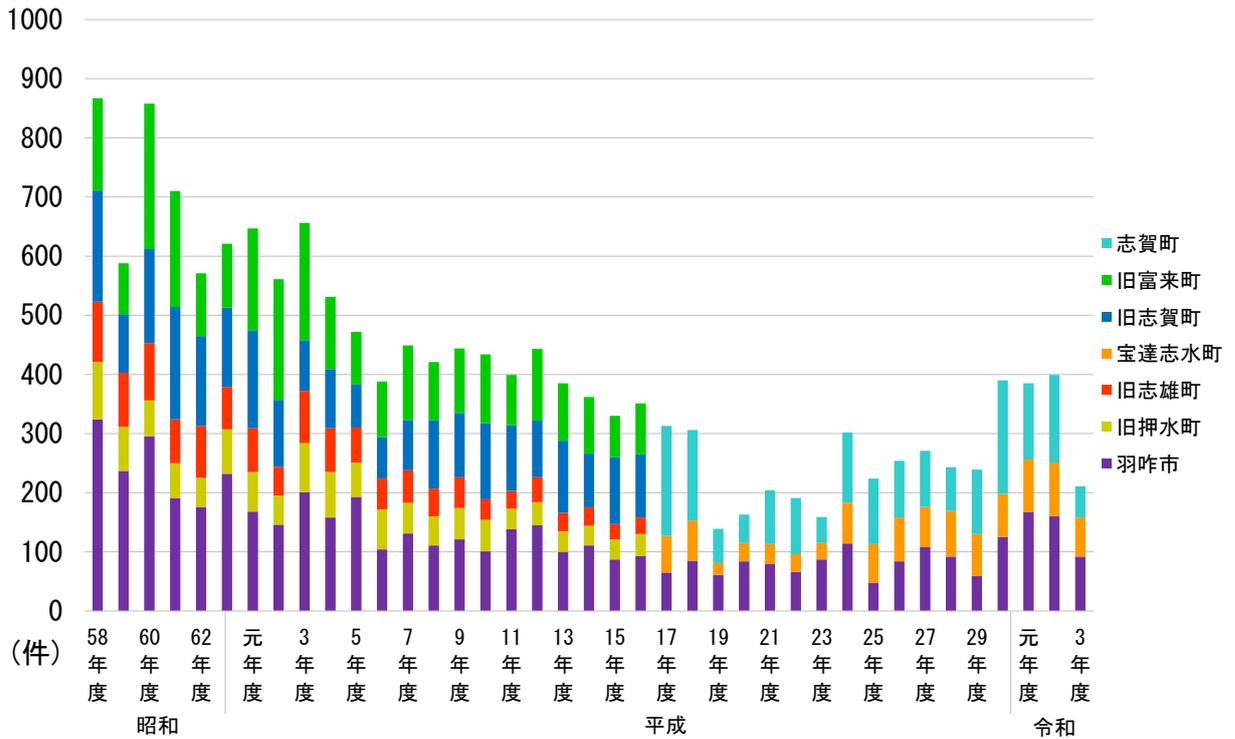
過去40年間の救助出動件数



過去50年間の防火対象物数



過去39年間の査察件数





編集後記

編集にあたりましては、昭和47年4月1日の組合消防発足から現在までの当消防本部の取り組み及び災害対応、消防組織や装備の移り変わりなどの写真や資料収集等、編集作業に取り組み、本周年誌の完成となりました。

本周年誌はレイアウト、文書などすべて職員による手作りで若手職員の写真を多く盛り込み、次世代を担う若手職員の「飛躍」「挑戦」に期待を込め編集作業を進めてまいりました。編集当初は、コンパクトな内容を基本に進めてまいりましたが、羽咋郡市の安全・安心を支えてきた先人の功績や当消防本部の歴史を顧みると、先人の意志を漏れなく後世に受け継ぐ使命感に駆られ自然と原稿量が増えていきました。過去の記憶を写真に皆様へ伝えるべく各職員で意見を出し合い、写真、資料収集や校閲など編集作業に執念を燃やして取り組みました。

少子高齢化が継続する社会にあって、災害は複雑多様化し消防の役割がますます重要となっています。そのような状況の中、本周年誌が、当消防本部の歴史を伝える貴重な記録となり、消防行政が今後ますます発展していくための一助となれば幸いです。なお、本周年誌の内容につきまして、時間的制約など意を尽くせなかったところもありますので、資料の不足や不完全な部分等が少なくなかったと存じますが、職員の努力に免じてご容赦いただきますようお願いいたします。

末尾になりましたが、本周年誌発行にあたり貴重な資料のご提供や助言、ご寄稿いただきました皆様方のご厚意に対し心より感謝申し上げます。次の10年、20年後に向けて、新たな飛躍を図る契機として、「和衷協同」の精神で地域とともに栄光の未来へつないでいきたいと思っております。

【発行日】 令和4年5月19日

【発行】 羽咋郡市広域圏事務組合消防本部
石川県羽咋市中央町ア 185 番地
☎0767-22-0089

【写真提供】 志賀町、宝達志水町、羽咋市
羽咋市歴史民俗資料館
石川県消防防災航空隊
株式会社プロフォートサニー

【編集】 羽咋郡市広域圏事務組合消防本部

松本 裕	北 英浩	西澤 司
吉田 雅信	西 敏紀	西野 貴正
松栄 聡史	橋本 徹則	安達 真也
北山 雅大	細川 智司	辻井 英晴
谷野 泰弘	池田 篤史	東 雄大
田渕 純	大矢 浩貴	中橋 昂介
今藤 真矢	松柳 翔吾	